

2024年度

F D 報告集



帝塚山大学



学校法人 帝塚山学園

本学における FD の主な組織上の来歴としては、先ず 2002 年度に設置された FD 推進室を起点として活動がスタートし、2012 年度には FD 推進室、学習支援室、全学教育共通センターの3つの組織および機能を統合および改組して、全学教育開発センターが設置された。以来、当センターが主体となって大学全体の FD 活動を推進してきたが、2021 年度には FD 活動のさらなる推進のために FD 推進委員会が設置され、FD に係る各種活動は、当委員会での検討および審議を経て実行に移されることになった。また、当委員会へ提案する原案は、全学教育開発センター内に設けられた FD 推進検討チームで作成し、本報告集の作成もまた、同チームに依頼しているところである。この場をお借りし、FD 推進委員会・委員ならびに FD 推進検討チーム・メンバーの先生方そして担当事務局である教学支援課(学部共通)職員の方々へ、心より感謝申し上げたい。

今年度の活動については、一昨年度に決定した見直し(授業改善アンケートおよび公開授業・授業参観はそれぞれ各期隔年で実施)の下、当初の予定のとおり実施することができた。

1. 授業改善アンケートは後期に実施し、本学独自の e-Learning システム(TALES)を活用して、極力授業時間内に行うよう依頼した。回収率は昨年度に比べやや減少したが、アンケート結果を踏まえての授業改善へ向けたリフレクション・シート(意見聴取シート)の提出率は100%(専任教員)となった。主な課題としては回収率について、学部間に差がある点を改善すること等を含め全体的に回収率を向上させることが挙げられ、より具体的な方策を講じる必要がある。
2. 公開授業・授業参観については前期に実施し、各学部および全学教育開発センターから2名ずつ授業を公開していただき、またその後には同じく各学部および全学教育開発センター内で検討会を開催した。検討会においては、参観した授業全般について闊達に意見交換がなされた。
3. 学内FDフォーラムについては、前期は「卒業生アンケート結果を教育改善に活かす」(対面形式)、後期は教職員研修会との共催で「現代の大学生の心理的特徴と発達課題」(オンライン形式)をテーマにそれぞれ実施した。特に前期のFDフォーラムにおいては、卒業生アンケートの分析結果をもとに4人1組のグループ・ワークを通じてディスカッションが活発に行われ、教育改善に対する課題意識を相互に高めることができた。

2008 年に大学設置基準の改正が行われ FD が義務化されて以降、10 数年が経過し、本学においても FD 活動の積み重ねが着実になされてきている。この FD が含意する学修者中心の教育の実現や学修成果にもとづく質保証は、教員一人ひとりの継続的な努力の結果、実現するものである。各自が本年度の教育活動において見出した諸課題の克服に努めるとともに、FD 本来の目的が達成されるよう、(全学教育開発センターが本年度末で廃止となるため、今後は)“FD 推進委員会”がその主要な推進役を積極的に担っていくことを期待したい。

2025 年3月

帝塚山大学 全学教育開発センター長
鈴木 卓治

目次

FD報告集の刊行によせて

I. 授業改善アンケート……………	1
II. 学生ヒアリング……………	29
III. FDフォーラム……………	37
IV. 公開授業……………	41
V. FD推進委員会……………	50
VI. 全学教育開発センターFD推進検討チーム……………	55

I . 授業改善アンケート

1. 2024 年度 授業改善アンケート集計結果

実施概要

今年度は後期のみの実施とし、TALES の各授業コース内でのアンケート形式で、原則全科目を対象として実施した。質問項目は前年度と同じである。また、受講生が余裕をもって回答できるように、実施期間を長く設定した。

(1) 目 的

学生によるアンケートを実施することで、開講されている授業に関する全体的傾向を把握するとともに、各担当教員に基礎データを提供し、授業改善に役立てる。

(2) 方 法

＜対象科目＞

原則として、学部・全学教育開発センター開講の全ての科目

(リレー講義、集中講義、共同担当科目、履修登録者が3名以下の科目は除く)

＜調査方法＞

TALES 内のアンケートモジュールを活用して実施

(3) 回収数・回収率

在学生数	対象科目数	対象科目の 延べ履修登録者数	回収数	回収率
2,806	659	20,068	9,214	45.9%

※在学生数は2024年5月1日現在

(4) 実施期間

2024年11月25日(月)～12月7日(土)

(5) アンケート項目

1.

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	-
Q02	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	-
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問したら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-
Q11	学修時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間は含まない）	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-

Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-
Q15	授業時間	授業の開始・終了時刻は守られていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない	-	-
Q16	授業環境	授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない	-	-

2.

[自由記述]

この授業で良いと思う点、または改善したほうが良いと思う点について、建設的な意見をお聞かせください。※授業改善につながる内容を記入すること。特定の人物の誹謗中傷は書かないこと。

(6) 授業アンケート結果概要

以下に、全学的な傾向についてまとめる。比較のために、昨年度前期の数値をカッコ内に示した。

回収率は、科目の開講学部等によってばらつきがみられるが、45.9%（昨年度は 51.6%）と減少した。

「学習時間」（Q11）をのぞく 15 の質問項目すべてにおいて、昨年度よりも数値が向上した。

1. 進度 約 85%が「適切」

「あなたにとってこの授業の進度は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は 85.2%（昨年度は 81.5%）であった。

2. 難易度 7割が「適切」

「あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は 70.0%（昨年度は 65.4%）であった。一方、「難しい」と「やや難しい」と答えた学生の割合をあわせると 24.6%（昨年度は 28.8%）であった。

3. シラバスとの整合性 約 86%の授業が整合的

「授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると 85.8%（昨年度は 83.7%）であった。

4. 理解度の確認

約 9 割が理解度を確認

「講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか」という質問に対して、「進めている」と「ある程度進めている」と答えた学生の割合をあわせると 92.5%（昨年度は 90.8%）であった。

5. 教材

約 97%が適切な教材

「授業内に配布あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか」という質問に対して、「適切である」と「ある程度適切である」と答えた学生の割合をあわせると 97.4%（昨年度は 97.2%）であった。

6. 説明の仕方

約 9 割が分かりやすい説明

「講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）」という質問に対して、「分かりやすい」と「ある程度分かりやすい」と答えた学生の割合をあわせると、90.5%（昨年度は 89.7%）であった。

7. 授業内容

約 9 割が関心あり

「授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか」という質問に対して、「関心を持てる」と「ある程度関心を持てる」と答えた割合をあわせると、91.0%（昨年度は 90.1%）であった。

8. 学習支援

支援体制は大幅に向上 「質問したことがない」学生が減少

「講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか」という質問に対して、「受けられる」と「ある程度受けられる」と答えた学生の割合をあわせると 70.2%（昨年度は 65.8%）であった。なお、「質問をしたことがない」と答えた学生は、25.9%（昨年度は 30.5%）であった。

9. 講師の姿勢

約 94%の満足度

「講師の学生への接し方に満足していますか」という質問に対して、「満足している」と「ある程度満足している」と答えた学生の割合をあわせると 94.2%（昨年度は 93.3%）であった。

10. フィードバック

約 9 割の授業で説明あり

「課題の解答等に対する説明は行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると 91.5%（昨年度は 89.3%）であった。

11. 学修時間

約 94%が 2 時間未満 「30 分未満」が増加

「予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間は含まない）」という質問に対して、「30 分未満」（48.2%、昨年度は 34.9%）が最も多く、次いで「30 分～1 時間」（32.6%、昨年度は 28.0%）、「1 時間～2 時間」（13.5%、昨年度は 25.3%）の順で、2 時間までの学修時間の学生が 94.3%（昨年度は 88.2%）を占めている。

12. 意欲的な学び	9 割以上が意欲的
------------	-----------

「この授業に意欲的に取り組んでいますか」という質問に、「意欲的に取り組んでいる」と「ある程度意欲的に取り組んでいる」と答えた学生は、93.1%（昨年度は 92.2%）であった。

13. 達成目標への到達度	約 86%は力がついている
---------------	---------------

「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という質問に、「力がついてきている」と「ある程度力がついてきている」と答えた学生をあわせると、85.8%（昨年度は 83.1%）であった。一方、「到達目標を知らない」という学生が、5.4%（昨年度は 6.3%）いた。

14. 授業実施方法の適切さ	約 95%が「意義あり」
----------------	--------------

「総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか」という質問に、「意義がある」「ある程度意義がある」と答えた学生をあわせると 94.6%（昨年度は 93.5%）であった。

15. 授業時間	97.4%が授業時間を遵守
----------	---------------

「授業の開始・終了時刻は守られていますか」という質問に、「思う」「ある程度思う」と答えた学生をあわせると 97.8%（昨年度は 97.4%）であった。

16. 授業環境	95.4%が授業環境に配慮
----------	---------------

「授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか」という質問に、「思う」「ある程度思う」と答えた学生をあわせると 96.2%（昨年度は 95.4%）であった。

今後の課題

調査結果については、開講学部等によるばらつきはあるものの、全体としては、「学修時間」をのぞくすべての項目において、昨年度の数値を上回り、2年連続で改善がみられたことになる。

一方、以前からの課題である「学修時間」については、2時間までの学修時間の学生の割合が昨年度から6.1ポイントも増加している。その内訳をみると、「30分未満」と答えた学生の比率が13.3ポイントも増加している。今回の調査では学修を「しなかった」という選択肢はないが、これまでの調査結果をふまえると、「30分未満」のなかには、まったく授業外の学修をしない学生が含まれていることが推測される。ちなみに、「30分未満」の割合は、2021年度前期、2022年度前期、2023年度前期、2024年後期の順に「14.7% → 32.7% → 34.9% → 48.2%」と推移している。このような状況を重く受けとめる必要があり、各授業における課題の出し方等についての改善が求められる。

以前から課題のひとつであった回収率については、昨年度から5.7ポイント減少した。昨年度より、学生の回答への負荷軽減の観点から、年一回の実施とした（今年度は後期に実施、来年度は前期に実施）。そのため、単純に前年度と比較することはできないが、引き続き回収率の向上につとめる必要がある。

(7) 授業改善アンケート集計結果

1. 概要

2024 年 11 月 25 日～12 月 7 日の間, 行った授業アンケートについて, 集計を行った. アンケートの実施概要を表 1 に示す.

表 1: 2024 年度 後期授業アンケート実施内容

アンケート実施日	2024 年 11 月 25 日 (2024/11/25 09:00) ～12 月 7 日 (2024/12/08 00:00)
アンケート対象	帝塚山大学在校生
アンケート実施方法	TALES のアンケートモジュールにより実施

2. アンケート回答状況

アンケートの対象とした講義, 及び対象とした講義の受講者(対象者数)はともに, それぞれ, 659 講義, 20, 068 名であった. また, 回答率は 45. 9%となり, 一昨年の実績と同水準となった. 詳細を表 2, 表 3 に示す.

表 2: アンケート回答状況 (全体)

	2024 年度後期	2023 年度前期	2022 年度前期
アンケート実施日	2024 年(11 月 25 日～12 月 7 日)	2023 年(6 月 12 日～24 日)	2022 年(6 月 3 日～10 日)
対象講義数	659	718	809
のべ対象受講者数	20,068	25,748	29,776
のべ回答者数	9,214	13,303	13,584
回答率 (のべ回答数/のべ受講者数)	45.9%	51.6%	45.6%

表 3: アンケート回答状況 (学部別)

	開講学部	講義数	受講生※	回答者数	回答率	2023 年度 回答率
講義開講学部	文学部	113	2328	806	34.6%	48.2%
	経済経営学部	99	3429	1016	29.6%	32.6%
	法学部	63	1319	609	46.2%	49.5%
	心理学部	45	2167	1151	53.1%	64.8%
	現代生活学部	127	4353	2598	59.7%	60.2%
	教育学部	82	2490	1204	48.4%	53.6%
	大学共通	130	3982	1830	46.0%	52.1%
教員所属学部	文学部	65	1566	581	37.1%	53.4%
	経済経営学部	70	1879	743	39.5%	39.6%
	法学部	53	1249	539	43.2%	49.9%
	心理学部	34	1575	856	54.4%	68.0%
	現代生活学部	45	1966	1443	73.4%	75.9%
	教育学部	40	1134	709	62.5%	62.6%
	大学共通	48	1090	722	66.2%	71.1%
	非常勤	304	9609	3621	37.7%	43.8%

※TALES のコースに学生ロールで登録されていたユーザー

3. アンケート集計結果

(1) 全学部

アンケート回答を全学部について集計した結果を図1に示す。

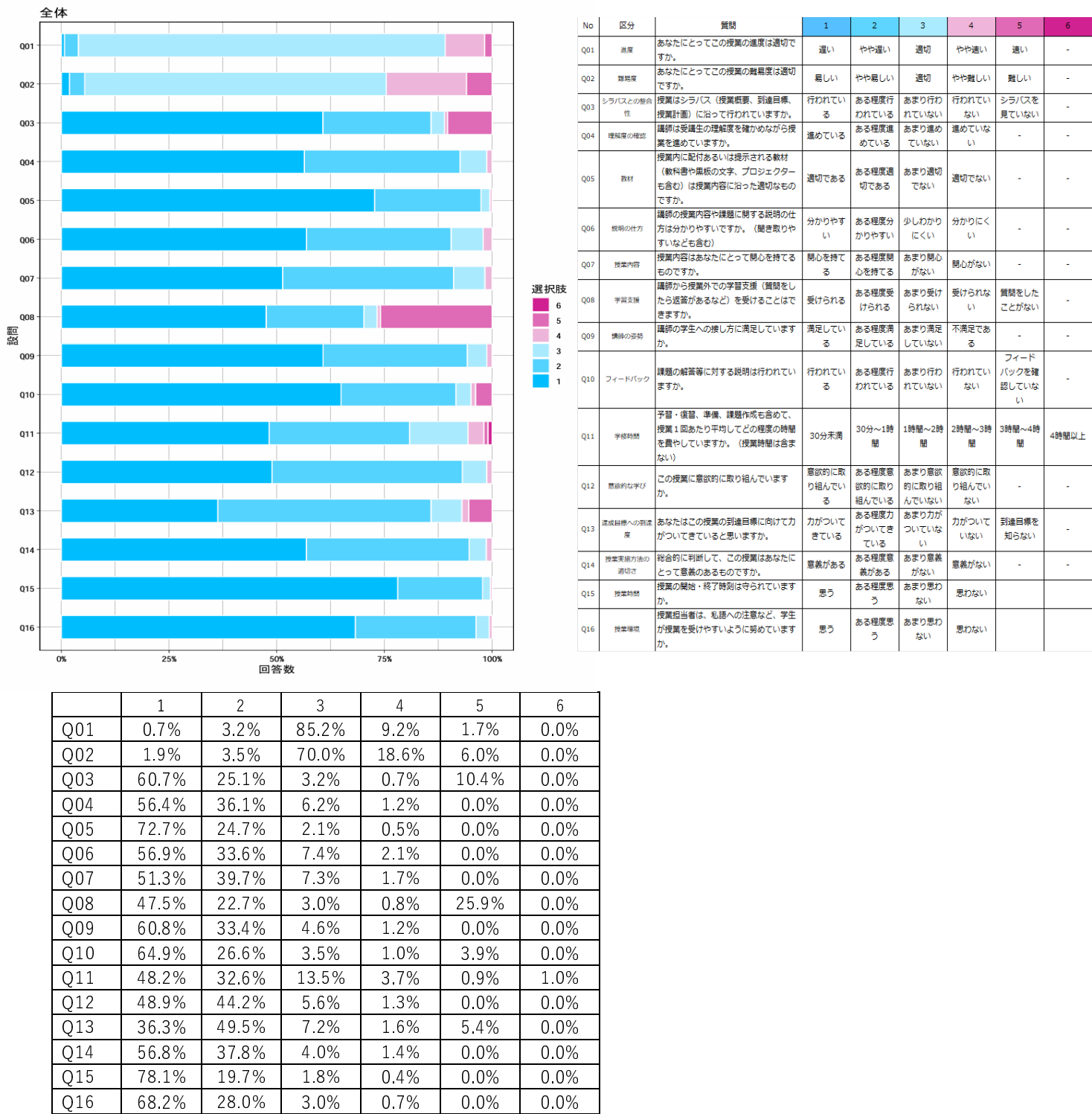


図1：全学部アンケート集計結果

(2) 学部別アンケート結果

以下に、設問毎のアンケート集計結果を開講学部毎、教員所属学部毎に示す。

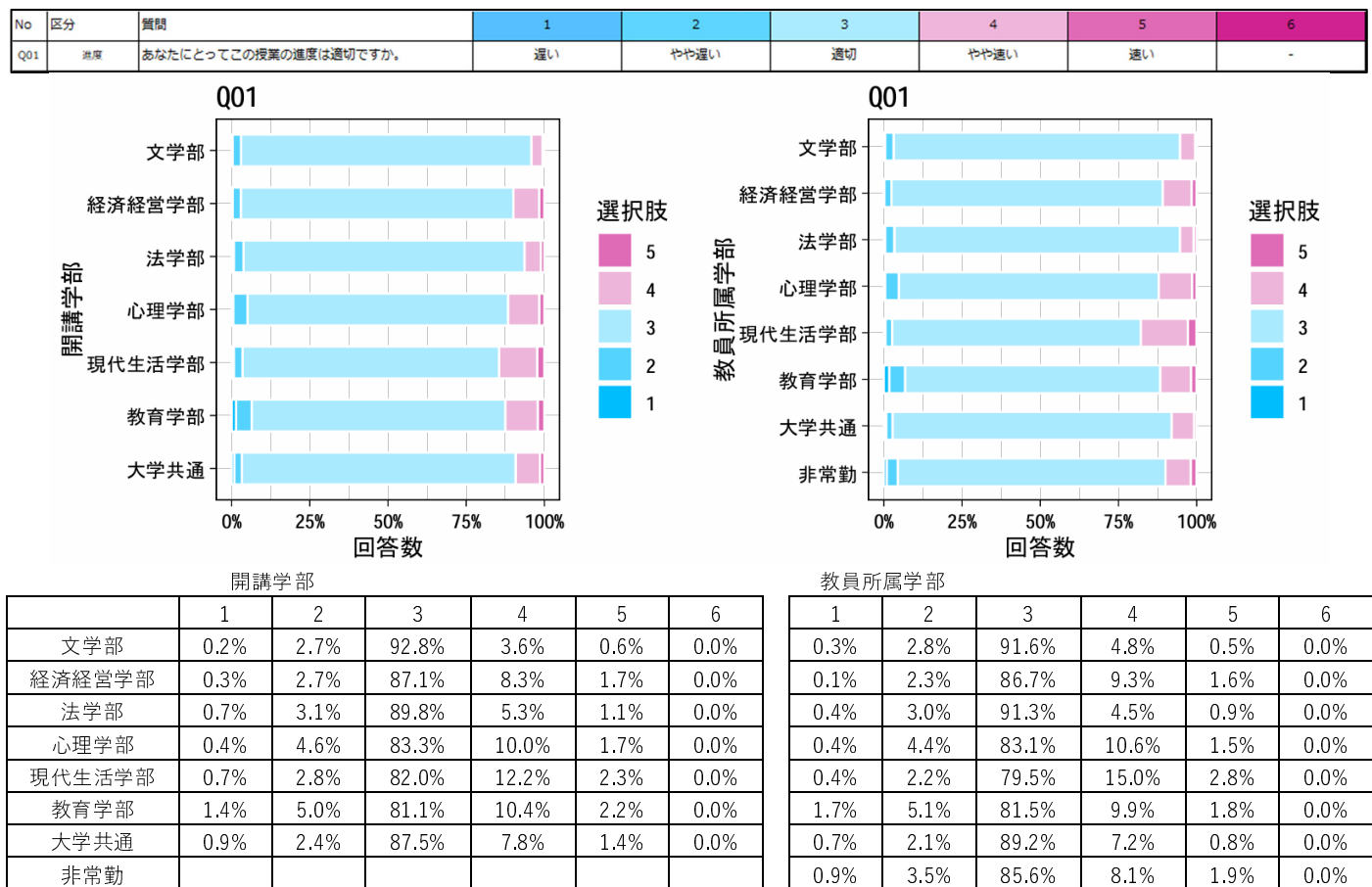


図 2：Q1 のアンケート集計

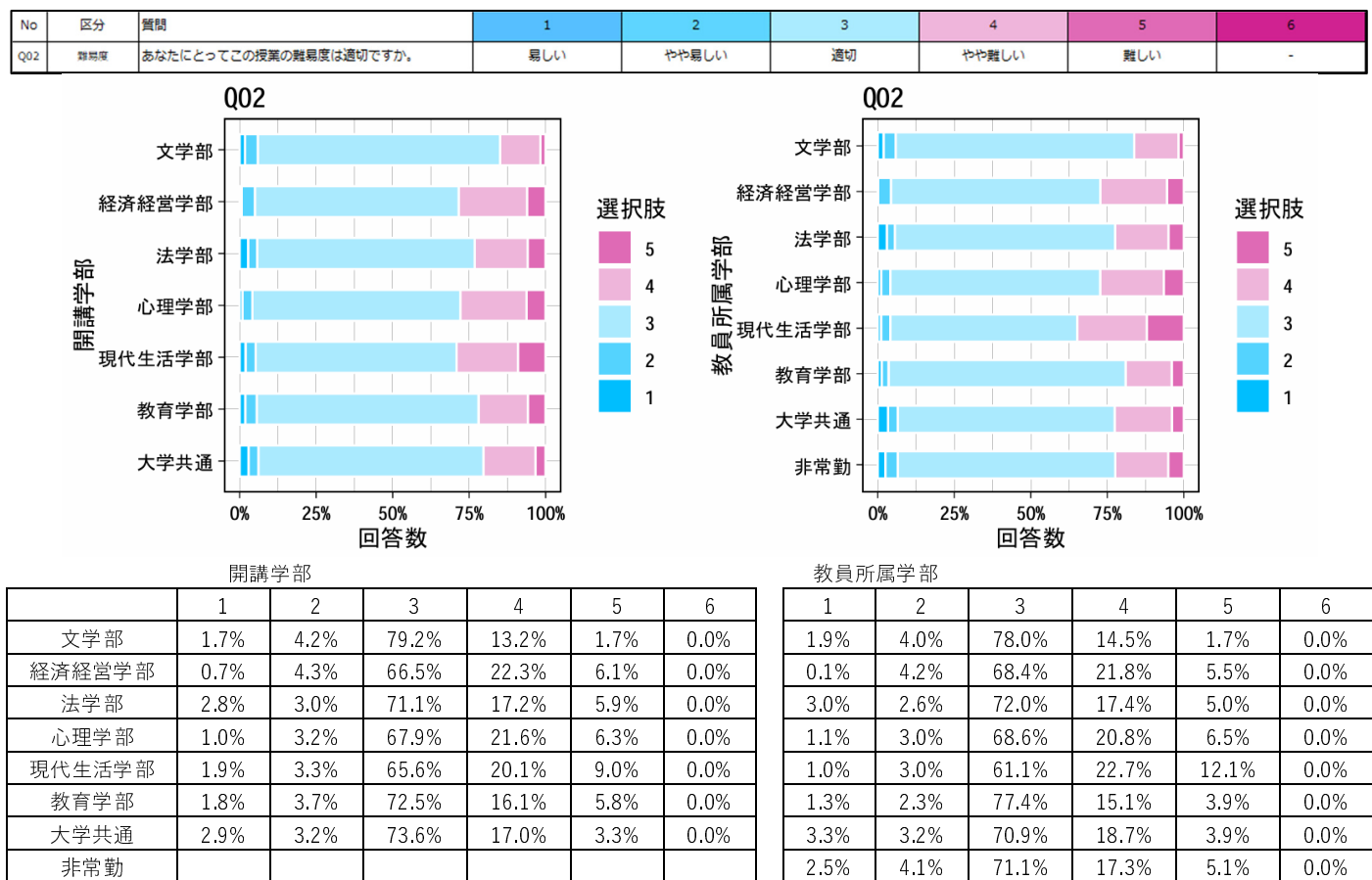
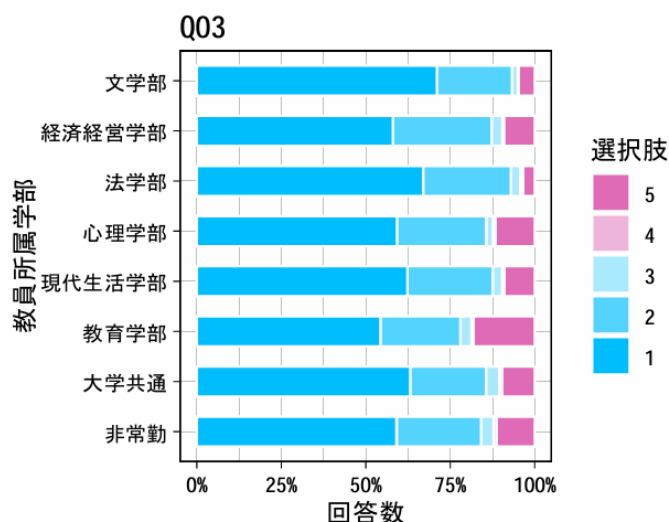
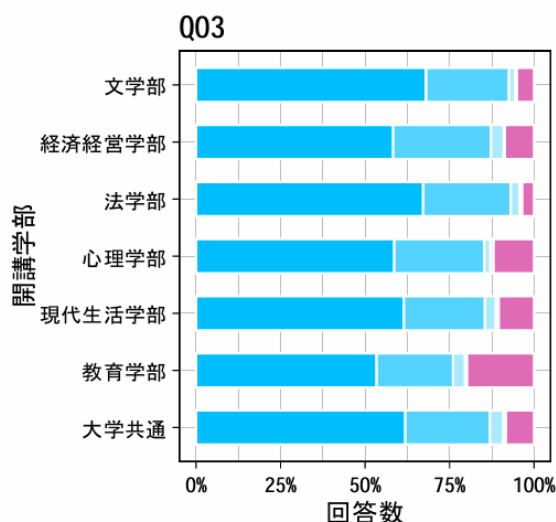


図 3：Q2 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q03	シラバスとの整合性	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-

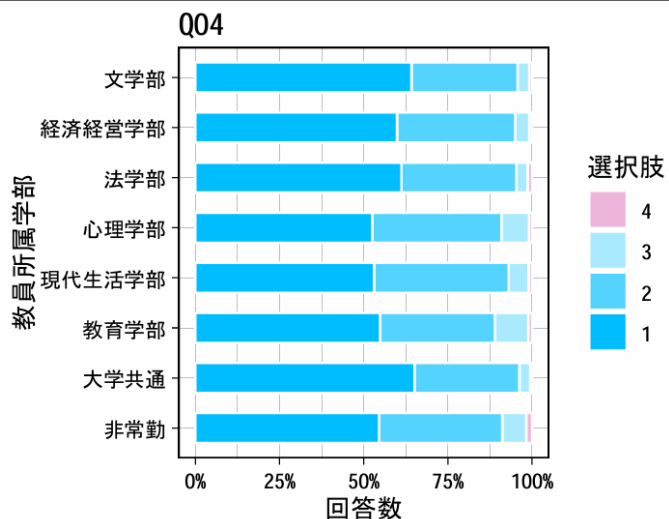
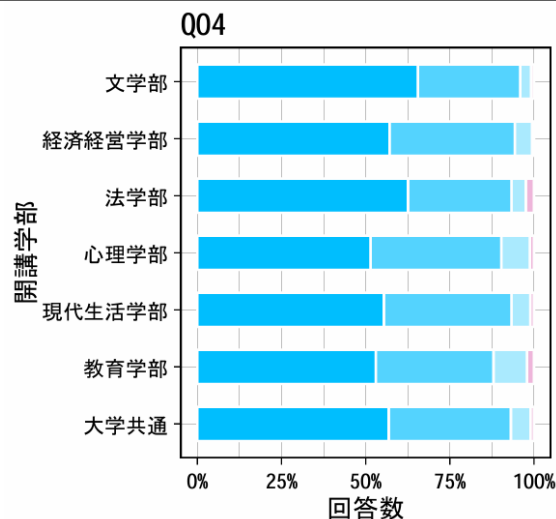


	1	2	3	4	5	6
文学部	68.0%	24.6%	1.7%	0.6%	5.1%	0.0%
経済経営学部	58.3%	28.9%	3.8%	0.3%	8.7%	0.0%
法学部	67.2%	25.9%	2.6%	0.7%	3.6%	0.0%
心理学部	58.6%	26.7%	1.8%	0.9%	12.1%	0.0%
現代生活学部	61.4%	24.0%	3.3%	0.8%	10.5%	0.0%
教育学部	53.3%	22.7%	3.6%	0.5%	19.9%	0.0%
大学共通	61.9%	25.0%	4.0%	0.8%	8.3%	0.0%
非常勤						

	1	2	3	4	5	6
文学部	71.1%	22.2%	1.7%	0.2%	4.8%	0.0%
経済経営学部	58.0%	29.2%	3.2%	0.4%	9.2%	0.0%
法学部	67.0%	26.0%	2.8%	0.7%	3.5%	0.0%
心理学部	59.2%	26.4%	2.0%	0.7%	11.7%	0.0%
現代生活学部	62.3%	25.2%	2.8%	0.7%	9.0%	0.0%
教育学部	54.3%	23.7%	3.2%	0.6%	18.2%	0.0%
大学共通	63.2%	22.4%	3.9%	0.8%	9.7%	0.0%
非常勤	59.1%	25.0%	3.7%	0.8%	11.4%	0.0%

図4：Q3のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q04	理解度の確認	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-

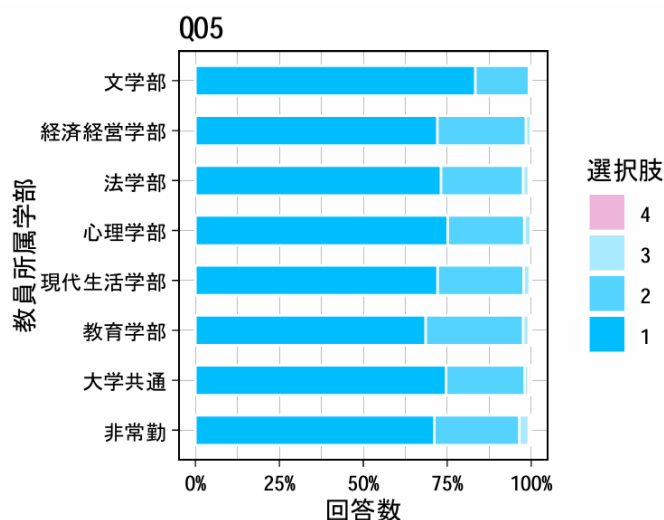
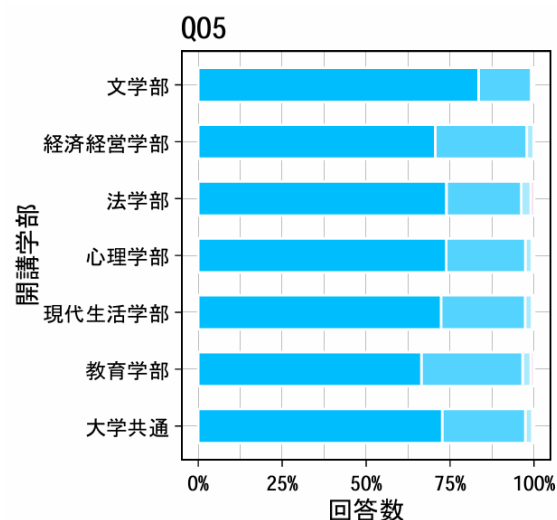


	1	2	3	4	5	6
文学部	65.5%	30.4%	3.2%	0.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	57.1%	37.2%	5.1%	0.6%	0.0%	0.0%
法学部	62.6%	30.7%	4.3%	2.5%	0.0%	0.0%
心理学部	51.4%	38.8%	8.5%	1.2%	0.0%	0.0%
現代生活学部	55.4%	37.9%	5.6%	1.1%	0.0%	0.0%
教育学部	53.0%	35.0%	10.0%	2.1%	0.0%	0.0%
大学共通	56.8%	36.3%	5.8%	1.0%	0.0%	0.0%
非常勤						

	1	2	3	4	5	6
文学部	64.2%	31.5%	3.4%	0.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	59.9%	35.1%	4.2%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	61.2%	34.1%	3.3%	1.3%	0.0%	0.0%
心理学部	52.6%	38.3%	8.2%	0.9%	0.0%	0.0%
現代生活学部	53.1%	40.0%	5.9%	1.0%	0.0%	0.0%
教育学部	54.9%	34.1%	9.9%	1.1%	0.0%	0.0%
大学共通	65.1%	31.2%	3.2%	0.6%	0.0%	0.0%
非常勤	54.5%	36.6%	7.1%	1.7%	0.0%	0.0%

図5：Q4のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q05	教材	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書や黒板の文字、プロジェクターも含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-

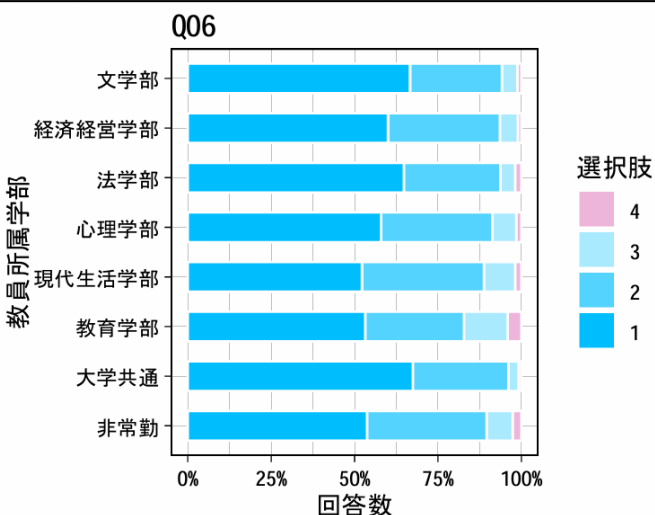
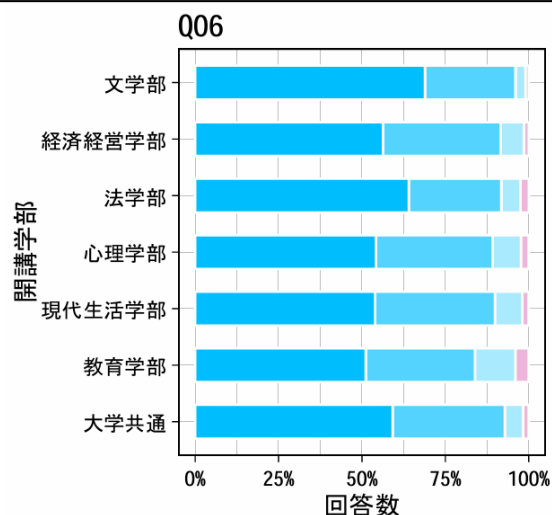


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	83.5%	15.6%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%
経済経営学部	70.6%	27.3%	2.1%	0.1%	0.0%	0.0%
法学部	73.9%	22.3%	2.8%	1.0%	0.0%	0.0%
心理学部	73.8%	23.5%	2.0%	0.6%	0.0%	0.0%
現代生活学部	72.3%	25.1%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%
教育学部	66.4%	30.1%	2.4%	1.0%	0.0%	0.0%
大学共通	72.6%	24.8%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	83.3%	16.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	72.0%	26.4%	1.5%	0.1%	0.0%	0.0%
法学部	73.1%	24.5%	1.7%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	75.1%	22.8%	2.0%	0.1%	0.0%	0.0%
現代生活学部	72.1%	25.6%	1.8%	0.5%	0.0%	0.0%
教育学部	68.5%	29.1%	1.7%	0.7%	0.0%	0.0%
大学共通	74.7%	23.4%	1.1%	0.8%	0.0%	0.0%
非常勤	71.1%	25.3%	2.8%	0.7%	0.0%	0.0%

図 6：Q5 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q06	説明の仕方	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。（聞き取りやすいなども含む）	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-

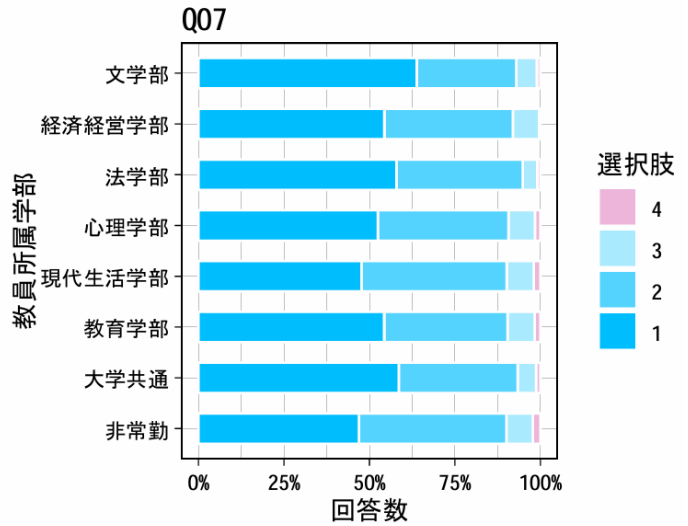
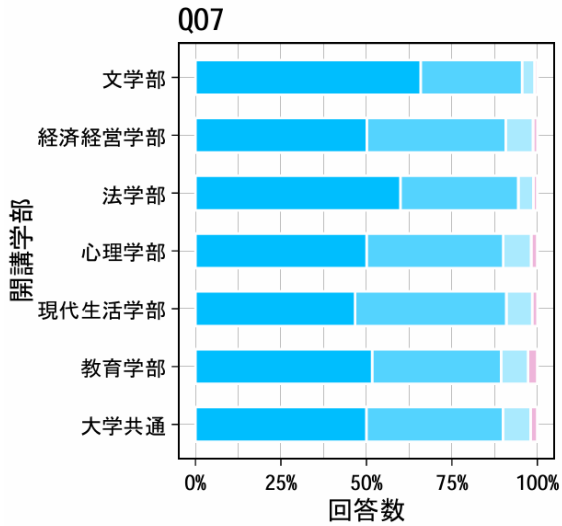


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	68.9%	27.2%	3.0%	1.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	56.3%	35.3%	6.9%	1.5%	0.0%	0.0%
法学部	64.0%	27.8%	5.7%	2.5%	0.0%	0.0%
心理学部	54.2%	35.0%	8.4%	2.3%	0.0%	0.0%
現代生活学部	53.9%	35.9%	8.2%	1.9%	0.0%	0.0%
教育学部	51.2%	32.7%	12.1%	4.0%	0.0%	0.0%
大学共通	59.2%	33.6%	5.5%	1.7%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	66.6%	27.5%	4.6%	1.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	60.0%	33.5%	5.4%	1.1%	0.0%	0.0%
法学部	64.7%	28.9%	4.5%	1.9%	0.0%	0.0%
心理学部	57.9%	33.4%	7.1%	1.5%	0.0%	0.0%
現代生活学部	52.2%	36.5%	9.4%	1.9%	0.0%	0.0%
教育学部	53.2%	29.6%	13.1%	4.1%	0.0%	0.0%
大学共通	67.5%	28.7%	3.0%	0.8%	0.0%	0.0%
非常勤	53.8%	35.8%	7.8%	2.6%	0.0%	0.0%

図 7：Q6 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q07	授業内容	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-

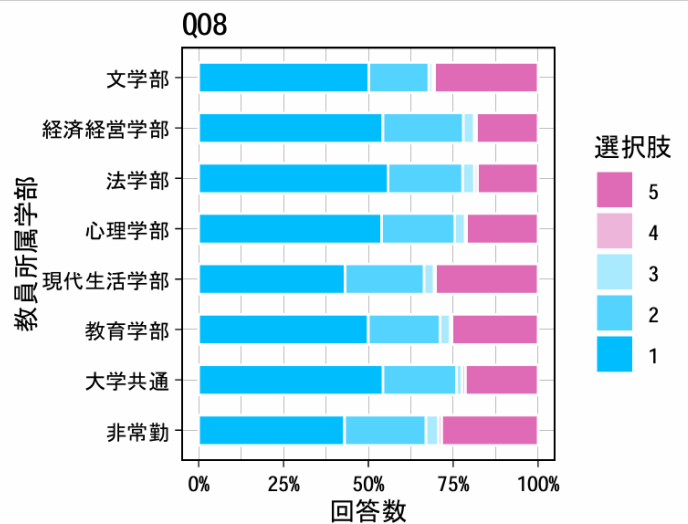
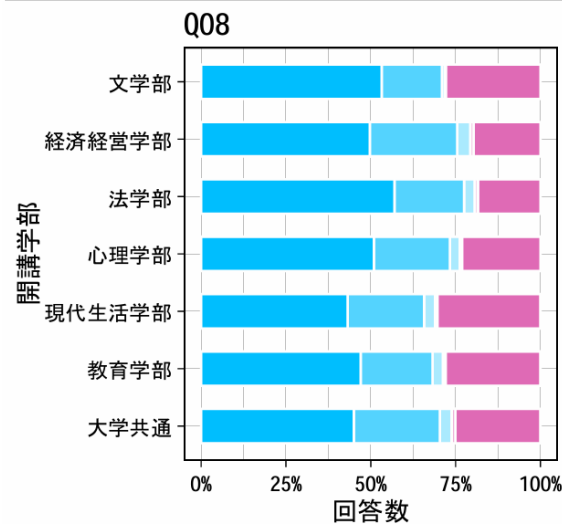


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	65.9%	29.7%	3.6%	0.9%	0.0%	0.0%
経済経営学部	50.1%	40.6%	8.0%	1.3%	0.0%	0.0%
法学部	59.9%	34.5%	4.4%	1.1%	0.0%	0.0%
心理学部	50.0%	40.0%	8.2%	1.8%	0.0%	0.0%
現代生活学部	46.7%	44.2%	7.5%	1.5%	0.0%	0.0%
教育学部	51.7%	37.7%	7.9%	2.7%	0.0%	0.0%
大学共通	50.0%	39.9%	8.1%	2.0%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	63.9%	29.1%	6.0%	1.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	54.4%	37.6%	7.7%	0.4%	0.0%	0.0%
法学部	57.9%	36.9%	4.3%	0.9%	0.0%	0.0%
心理学部	52.5%	38.2%	7.7%	1.6%	0.0%	0.0%
現代生活学部	47.7%	42.5%	7.9%	1.9%	0.0%	0.0%
教育学部	54.3%	36.1%	7.9%	1.7%	0.0%	0.0%
大学共通	58.6%	34.8%	5.4%	1.2%	0.0%	0.0%
非常勤	46.9%	43.1%	7.7%	2.2%	0.0%	0.0%

図8：Q7 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q08	学習支援	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-

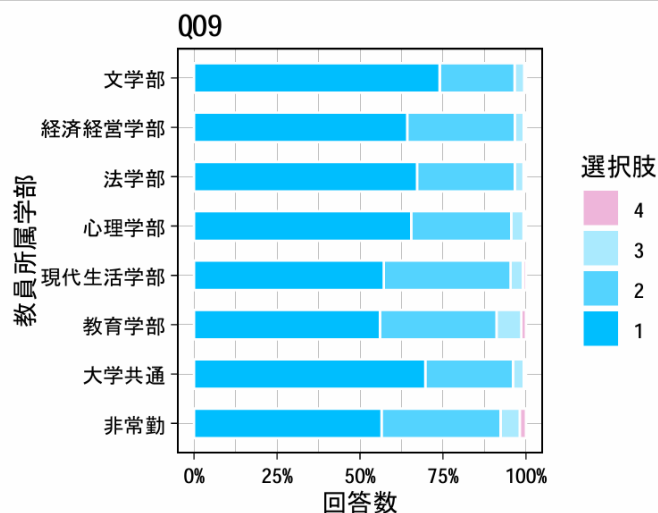
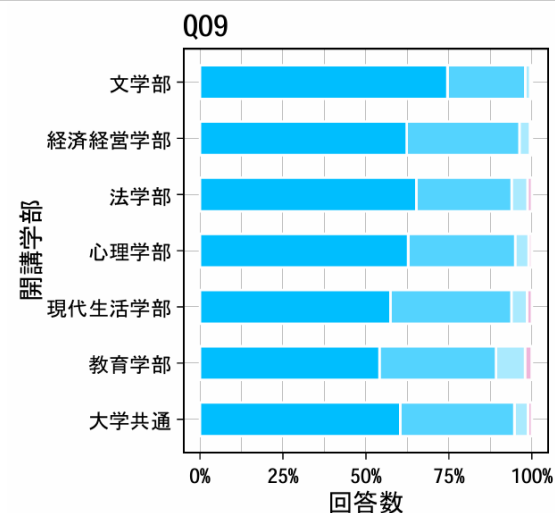


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	53.2%	17.7%	0.9%	0.2%	27.9%	0.0%
経済経営学部	49.7%	25.8%	3.8%	1.0%	19.7%	0.0%
法学部	57.0%	20.5%	3.1%	1.0%	18.4%	0.0%
心理学部	50.9%	22.4%	2.9%	0.7%	23.1%	0.0%
現代生活学部	43.2%	22.6%	3.2%	0.7%	30.4%	0.0%
教育学部	47.0%	21.2%	3.1%	0.7%	28.0%	0.0%
大学共通	45.0%	25.4%	3.4%	1.1%	25.1%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	50.1%	17.7%	1.0%	0.7%	30.5%	0.0%
経済経営学部	54.2%	23.7%	3.2%	0.7%	18.2%	0.0%
法学部	55.8%	21.9%	3.5%	0.9%	17.8%	0.0%
心理学部	53.9%	21.6%	3.0%	0.5%	21.0%	0.0%
現代生活学部	43.1%	23.3%	3.0%	0.4%	30.2%	0.0%
教育学部	49.9%	21.2%	3.0%	0.6%	25.4%	0.0%
大学共通	54.3%	21.6%	1.7%	1.0%	21.5%	0.0%
非常勤	42.9%	24.0%	3.6%	1.0%	28.4%	0.0%

図9：Q8 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q09	講師の姿勢	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-

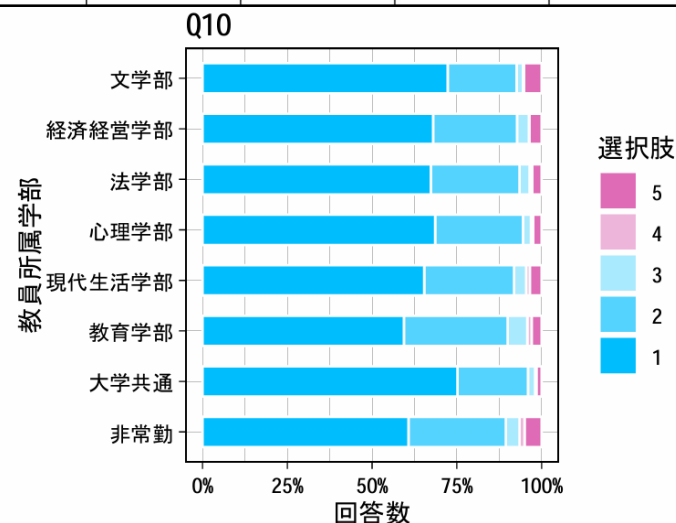
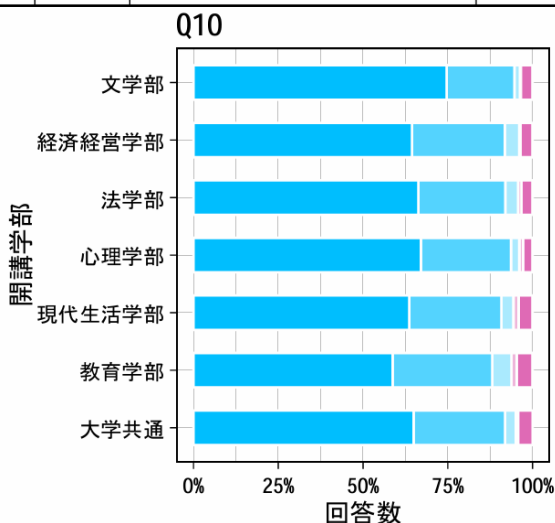


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	74.6%	23.4%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	62.3%	34.0%	3.1%	0.6%	0.0%	0.0%
法学部	65.2%	28.7%	4.8%	1.3%	0.0%	0.0%
心理学部	62.7%	32.2%	4.1%	1.0%	0.0%	0.0%
現代生活学部	57.4%	36.5%	4.7%	1.5%	0.0%	0.0%
教育学部	54.1%	35.1%	8.7%	2.1%	0.0%	0.0%
大学共通	60.3%	34.4%	4.1%	1.1%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	74.0%	22.5%	2.9%	0.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	64.2%	32.4%	2.7%	0.7%	0.0%	0.0%
法学部	67.2%	29.5%	2.6%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	65.4%	30.1%	3.7%	0.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	57.2%	38.2%	3.7%	0.9%	0.0%	0.0%
教育学部	56.0%	35.1%	7.5%	1.4%	0.0%	0.0%
大学共通	69.7%	26.5%	3.2%	0.7%	0.0%	0.0%
非常勤	56.5%	35.9%	5.8%	1.9%	0.0%	0.0%

図 10：Q9 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q10	フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-

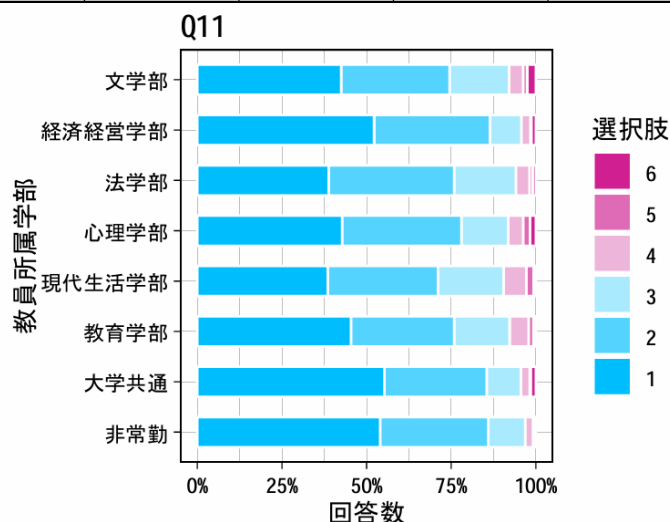
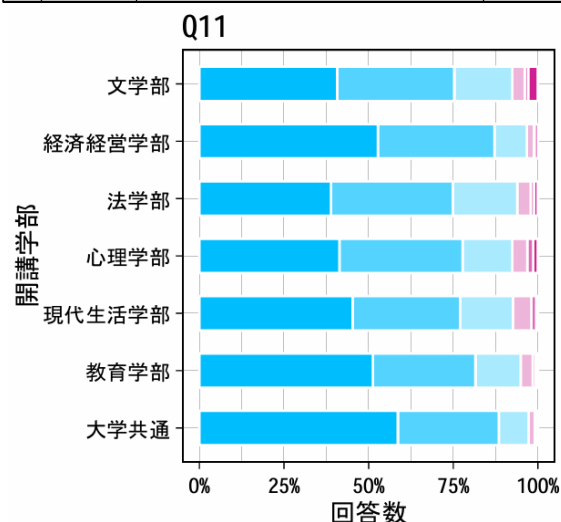


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	74.7%	20.0%	1.6%	0.2%	3.5%	0.0%
経済経営学部	64.5%	27.4%	4.2%	0.4%	3.5%	0.0%
法学部	66.3%	25.6%	3.8%	1.0%	3.3%	0.0%
心理学部	67.1%	26.6%	2.4%	1.1%	2.8%	0.0%
現代生活学部	63.7%	27.1%	3.5%	1.5%	4.1%	0.0%
教育学部	58.7%	29.4%	5.6%	1.6%	4.7%	0.0%
大学共通	64.9%	27.0%	3.2%	0.7%	4.3%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	72.3%	20.3%	1.9%	0.3%	5.2%	0.0%
経済経営学部	68.0%	24.8%	3.5%	0.1%	3.6%	0.0%
法学部	67.3%	26.2%	3.0%	0.7%	2.8%	0.0%
心理学部	68.6%	25.9%	2.3%	0.7%	2.5%	0.0%
現代生活学部	65.3%	26.5%	3.5%	1.1%	3.5%	0.0%
教育学部	59.4%	30.6%	5.8%	1.3%	3.0%	0.0%
大学共通	75.2%	20.8%	2.1%	0.4%	1.5%	0.0%
非常勤	60.8%	28.7%	4.0%	1.5%	5.0%	0.0%

図 11：Q10 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q11	学習時間	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間は含まない）	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上

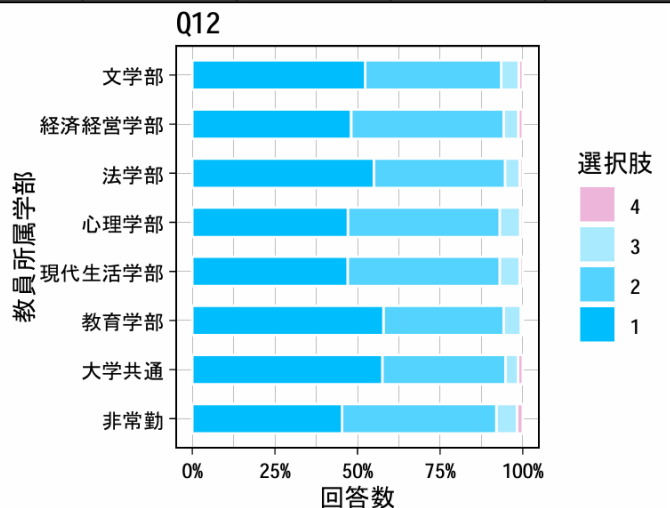
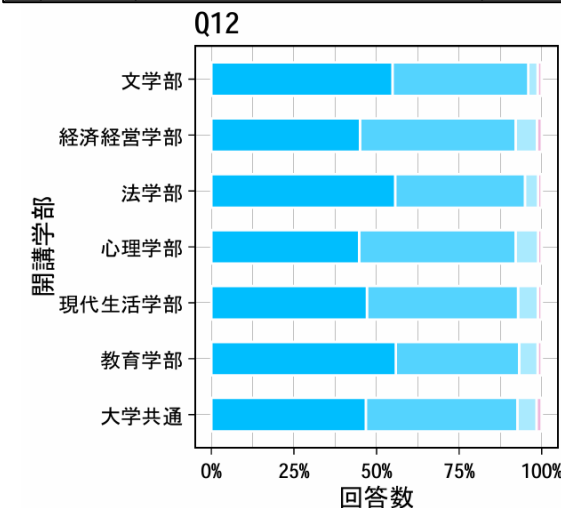


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	40.7%	34.6%	17.1%	3.7%	1.0%	2.9%
経済経営学部	52.8%	34.4%	9.5%	2.1%	0.2%	1.0%
法学部	38.9%	36.0%	19.0%	3.9%	1.0%	1.1%
心理学部	41.4%	36.4%	14.7%	4.4%	1.7%	1.4%
現代生活学部	45.3%	31.8%	15.6%	5.4%	1.4%	0.5%
教育学部	51.2%	30.3%	13.4%	3.6%	0.8%	0.7%
大学共通	58.6%	29.8%	8.8%	1.8%	0.2%	0.7%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	42.5%	32.0%	17.6%	4.1%	1.2%	2.6%
経済経営学部	52.2%	34.2%	9.3%	2.7%	0.3%	1.3%
法学部	38.8%	37.1%	18.2%	4.1%	0.9%	0.9%
心理学部	42.8%	35.3%	13.8%	4.4%	2.0%	1.8%
現代生活学部	38.5%	32.6%	19.3%	6.7%	2.1%	0.7%
教育学部	45.4%	30.5%	16.4%	5.6%	1.4%	0.7%
大学共通	55.3%	30.2%	10.1%	2.6%	0.3%	1.5%
非常勤	54.0%	32.0%	10.9%	2.3%	0.3%	0.6%

図 12：Q11 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q12	意欲的な学び	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-



開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	54.8%	41.1%	2.9%	1.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	45.0%	47.1%	6.4%	1.5%	0.0%	0.0%
法学部	55.7%	39.2%	3.9%	1.1%	0.0%	0.0%
心理学部	44.7%	47.4%	6.8%	1.1%	0.0%	0.0%
現代生活学部	47.1%	45.7%	6.0%	1.2%	0.0%	0.0%
教育学部	55.8%	37.4%	5.6%	1.2%	0.0%	0.0%
大学共通	46.8%	45.8%	5.8%	1.6%	0.0%	0.0%
非常勤						

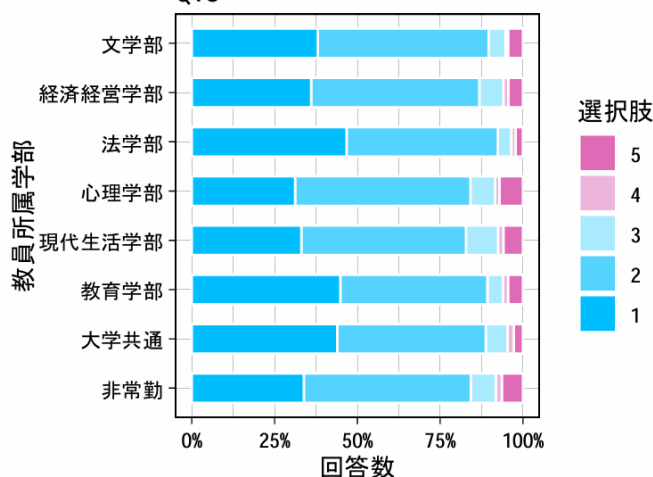
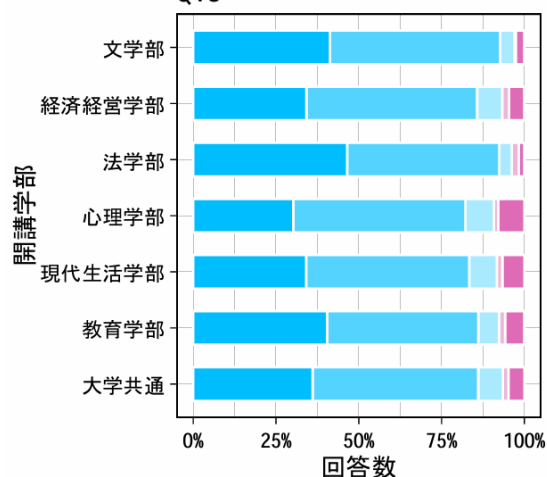
教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	52.3%	41.1%	5.3%	1.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	48.0%	46.2%	4.4%	1.3%	0.0%	0.0%
法学部	54.9%	39.7%	4.5%	0.9%	0.0%	0.0%
心理学部	47.1%	45.9%	6.2%	0.8%	0.0%	0.0%
現代生活学部	47.0%	46.0%	6.1%	0.9%	0.0%	0.0%
教育学部	57.8%	36.4%	5.2%	0.6%	0.0%	0.0%
大学共通	57.5%	37.3%	3.9%	1.4%	0.0%	0.0%
非常勤	45.3%	46.7%	6.2%	1.7%	0.0%	0.0%

図 13：Q12 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q13	達成目標への到達度	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-

Q13

Q13



開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	41.3%	51.4%	4.3%	0.4%	2.6%	0.0%
経済経営学部	34.2%	51.6%	7.6%	2.1%	4.6%	0.0%
法学部	46.5%	46.0%	3.8%	2.1%	1.6%	0.0%
心理学部	30.2%	52.0%	8.6%	1.3%	7.9%	0.0%
現代生活学部	34.1%	49.2%	8.4%	1.7%	6.7%	0.0%
教育学部	40.4%	45.7%	6.2%	1.8%	5.8%	0.0%
大学共通	36.1%	50.0%	7.4%	1.7%	4.8%	0.0%
非常勤						

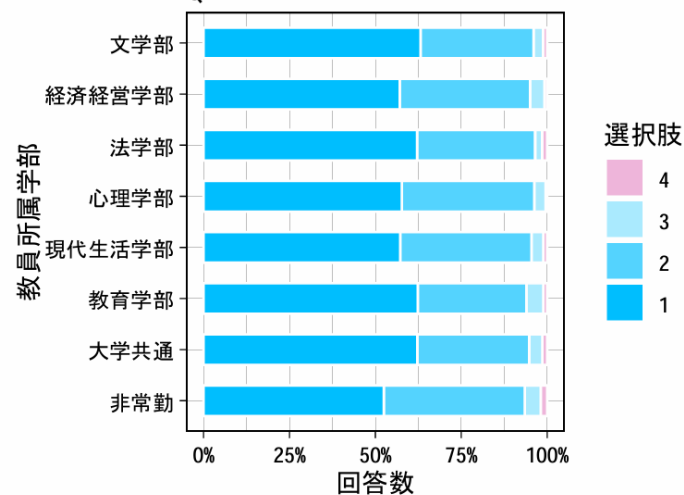
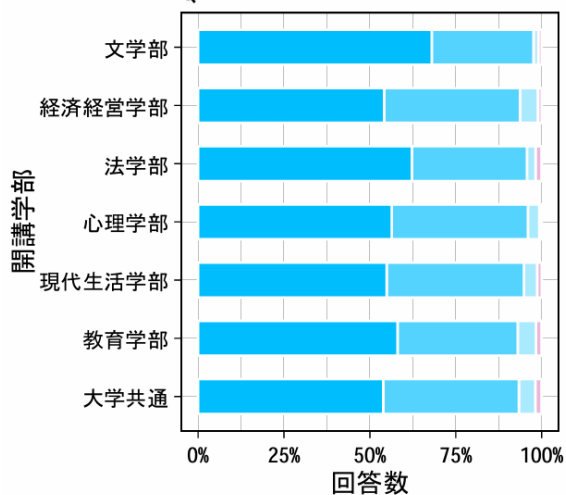
教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	38.0%	51.6%	5.0%	0.9%	4.5%	0.0%
経済経営学部	36.1%	50.7%	7.3%	1.5%	4.4%	0.0%
法学部	46.8%	45.6%	4.1%	1.3%	2.2%	0.0%
心理学部	31.2%	52.9%	7.5%	1.3%	7.1%	0.0%
現代生活学部	33.1%	49.8%	9.6%	1.7%	5.9%	0.0%
教育学部	44.9%	44.4%	4.7%	1.6%	4.5%	0.0%
大学共通	43.9%	44.9%	6.5%	1.9%	2.8%	0.0%
非常勤	33.8%	50.5%	7.6%	1.8%	6.4%	0.0%

図 14：Q13 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q14	授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-

Q14

Q14

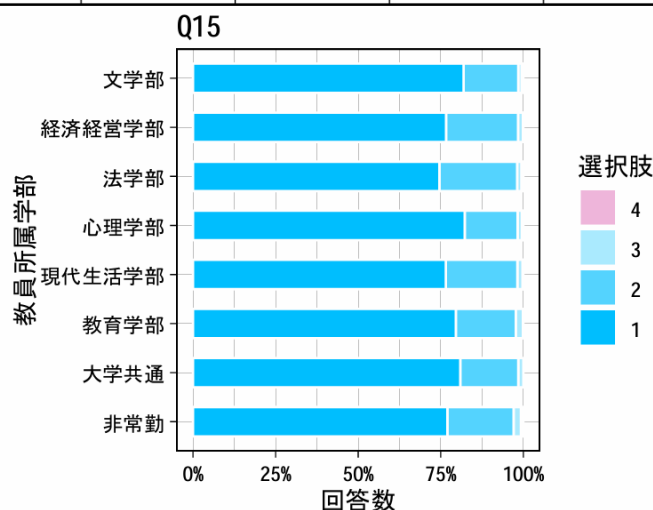
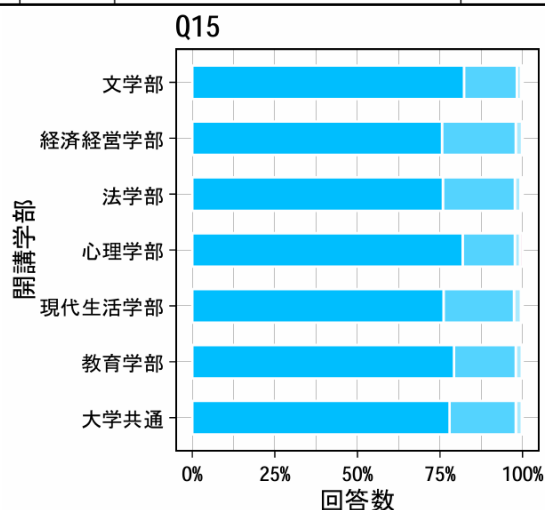


開講学部	1	2	3	4	5	6
文学部	68.0%	29.7%	1.4%	1.0%	0.0%	0.0%
経済経営学部	54.1%	39.6%	5.2%	1.1%	0.0%	0.0%
法学部	62.2%	33.5%	2.5%	1.8%	0.0%	0.0%
心理学部	56.4%	39.6%	3.3%	0.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	54.9%	40.0%	3.8%	1.3%	0.0%	0.0%
教育学部	58.1%	35.0%	5.3%	1.7%	0.0%	0.0%
大学共通	53.9%	39.5%	4.8%	1.9%	0.0%	0.0%
非常勤						

教員所属学部	1	2	3	4	5	6
文学部	63.2%	32.9%	2.8%	1.2%	0.0%	0.0%
経済経営学部	57.1%	38.0%	4.2%	0.8%	0.0%	0.0%
法学部	62.2%	34.3%	2.0%	1.5%	0.0%	0.0%
心理学部	57.7%	38.6%	3.3%	0.5%	0.0%	0.0%
現代生活学部	57.2%	38.2%	3.5%	1.1%	0.0%	0.0%
教育学部	62.3%	31.6%	4.9%	1.1%	0.0%	0.0%
大学共通	62.2%	32.5%	3.9%	1.4%	0.0%	0.0%
非常勤	52.5%	41.0%	4.7%	1.9%	0.0%	0.0%

図 15：Q14 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q15	授業時間	授業の開始・終了時刻は守られていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない		

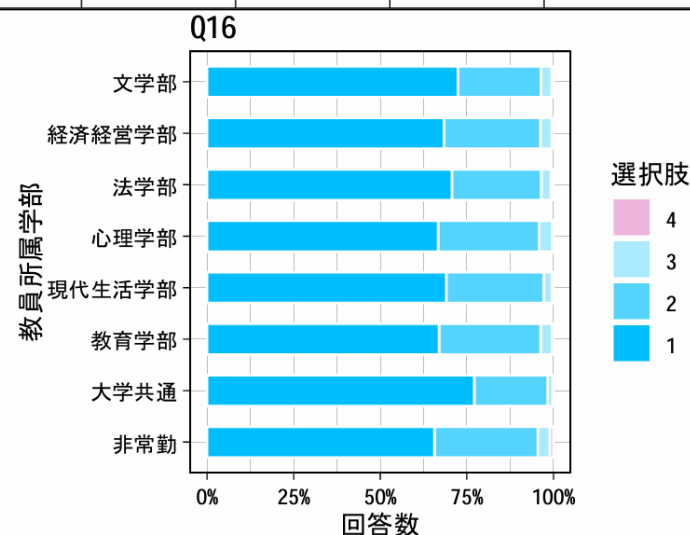
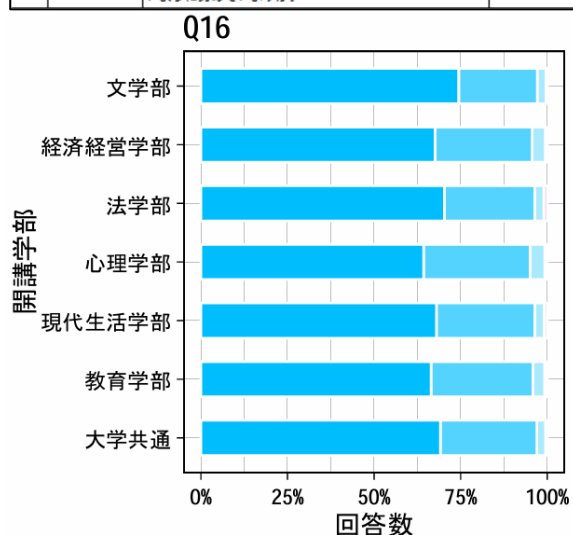


	1	2	3	4	5	6
文学部	82.3%	16.0%	1.2%	0.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	75.6%	22.3%	1.9%	0.2%	0.0%	0.0%
法学部	75.9%	21.8%	1.6%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	81.8%	15.8%	1.6%	0.8%	0.0%	0.0%
現代生活学部	76.1%	21.3%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%
教育学部	79.2%	18.7%	1.8%	0.2%	0.0%	0.0%
大学共通	77.9%	20.1%	1.7%	0.3%	0.0%	0.0%
非常勤						

	1	2	3	4	5	6
文学部	81.9%	16.5%	1.0%	0.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	76.6%	21.8%	1.5%	0.1%	0.0%	0.0%
法学部	74.6%	23.6%	1.3%	0.6%	0.0%	0.0%
心理学部	82.2%	16.0%	1.3%	0.5%	0.0%	0.0%
現代生活学部	76.5%	21.7%	1.5%	0.3%	0.0%	0.0%
教育学部	79.5%	18.2%	2.1%	0.1%	0.0%	0.0%
大学共通	80.9%	17.6%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
非常勤	77.0%	20.0%	2.3%	0.7%	0.0%	0.0%

図 16：Q15 のアンケート集計

No	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q16	授業環境	授業担当者は、私語への注意など、学生が授業を受けやすいように努めていますか。	思う	ある程度思う	あまり思わない	思わない		



	1	2	3	4	5	6
文学部	74.4%	22.7%	2.5%	0.4%	0.0%	0.0%
経済経営学部	67.6%	28.1%	3.7%	0.6%	0.0%	0.0%
法学部	70.3%	26.1%	2.6%	1.0%	0.0%	0.0%
心理学部	64.3%	30.8%	4.3%	0.7%	0.0%	0.0%
現代生活学部	68.0%	28.4%	2.7%	0.9%	0.0%	0.0%
教育学部	66.4%	29.4%	3.4%	0.7%	0.0%	0.0%
大学共通	69.2%	27.8%	2.5%	0.5%	0.0%	0.0%
非常勤						

	1	2	3	4	5	6
文学部	72.5%	23.9%	3.1%	0.5%	0.0%	0.0%
経済経営学部	68.4%	27.9%	3.2%	0.5%	0.0%	0.0%
法学部	70.7%	25.8%	2.8%	0.7%	0.0%	0.0%
心理学部	66.7%	29.2%	3.7%	0.4%	0.0%	0.0%
現代生活学部	69.1%	28.1%	2.4%	0.5%	0.0%	0.0%
教育学部	67.0%	29.3%	3.2%	0.4%	0.0%	0.0%
大学共通	77.1%	21.2%	1.4%	0.3%	0.0%	0.0%
非常勤	65.7%	29.8%	3.5%	1.0%	0.0%	0.0%

図 17：Q16 のアンケート集計

2. 授業改善アンケートの結果のフィードバックについて

(1) 担当教員へのフィードバック

アンケート結果は、TALES 上で自動集計されたものを各自確認いただくこととし、以下の依頼をした。なお、意見聴取シートの提出率は、72.8%（専任 100%、非常勤 58.0%）だった。

- 集計結果および学生からの意見に対して、できるだけ講義中に説明等を行うとともに、今後の授業改善の一助とすること。
- 意見聴取シート（「結果の予想と実際の比較」「結果を踏まえての授業改善方法」「先生方が授業で工夫されている点」「授業運営で困っている点」）を提出すること。
⇒「結果を踏まえての授業改善方法」は、原文のまま学内サーバーにて教職員及び学生に公開する。
⇒「先生方が授業で工夫されている点」については、全学教育開発センターで検討の上、「ティーチング・ティップス集」としてまとめたものを FD 報告集に掲載し公開する。

(2) 学長、副学長、各学部長、全学教育開発センター長へのフィードバック

①アンケート対象科目全体の集計結果、②アンケート対象科目の開講所属別集計結果、③専任教員担当科目についての教員所属別集計結果を、学長、副学長、各学部長および全学教育開発センター長に通知した。（①・②・③を、専任教職員が参照できる学内サーバーに収納した。）

(3) 学生へのフィードバック

担当教員が提出した意見聴取シートのうち、「結果を踏まえての授業改善方法」の一覧を、学生が参照できる学内サーバーに収納した。

(4) FD 推進委員会での報告・検討

FD 推進委員会にて以下の報告・検討をおこなった。

- 授業改善アンケートの実施期間、方法等についての検討
- アンケート質問項目、意見聴取シート記載項目変更の報告
- アンケート実施状況、意見聴取シート提出状況の報告
- 「ティーチング・ティップス集」の検討

- (1) 2024 年度の授業改善アンケートの結果を受けて先生方から提出いただいた意見聴取シート「授業において工夫している点」の中から、多くの先生方に参考になると思われるものをピックアップした。
- (2) その上で、これまでの内容を一部改訂し、今回新たにピックアップされたものに*と表示し加えている。
- (3) 同類の工夫が複数の項目に入っている場合があるが、いずれにも該当するとの判断から、敢えてそのようにしている。

1. 授業で気をつけていること

- *全学共通科目については、「専門科目ではないので自分には関係がない」と思う学生が多いため、具体的な事例をあげながら、受講生の専門分野と当該科目がどうつながっているかを示すようにしている。
- ・個人の身近な事例と理論との関係性について、学生たちと一緒に議論を深めていく。
- ・私語の注意をこまめに行うように気を付けている。
- ・1年生は大学に慣れておらず、顔をあわせる機会も少ないことから、学生との距離については十分に配慮する。
- ・授業を聞く前と後とでは知識量や興味が変わるようにしている。
- ・常に最新の情報を収集するとともに、授業の構造が具体的に理解できるように授業構成の見える化を心がけている。
- ・理論と実践の融合を図ることを大事にしている。
- ・教科内容をできるだけわかりやすく説明すると同時に教科の意義を考察できるような問いかけをしている。
- ・何のための実験操作か？その操作でどんなことが起こるのか？などといったことを、限られた時間の中ではあるが、学生一人ひとりがイメージできるような授業を実践する。
- ・作業の繰り返しを行い何度も体験ができるように工夫する。
- ・出来るだけ多くの学生に発表の機会を与えようとする。
- ・クラスメイトがどのような考えを持ち課題を進めているのか？ということクラス全体で共有（可視化）しながら、時にそれらをピアで（仲間同士で）評価し、課題（授業）全体を進めていくよう工夫する。すなわち、縦（教員）だけでなく、横（仲間）からの刺激を受けられるように授業構成する。
- ・演習中にわからない部分を友人に尋ねて解決するケースはお互いの学びあいのために良いことではあるが、間違いを教えあうこともある。困っている様子の学生に対して、演習時の巡回中により一層声がけを行い、学生からの説明を傾聴しつつ解決へのアドバイスに努める。

- ・可能な限り学生の声を聞いて講義に反映させる。
- ・学生が、課題へどのように取り組んでいるのかを確認しつつ、次の授業の構想を立てるようにする。
- ・毎回の授業課題で書かせている「授業内容の要約」から、授業の理解度を確認し、進捗スピードなど注意する。

2. 講義方法

- * 学生に身近な YouTube 動画を利用して、テーマに沿った内容のニュース動画や特集動画を視聴し、資料に動画のリンクを貼り付け、参考動画としてさらに学びたい学生がアクセスできるようにしている。
- ・対面授業が久々に再開されたことから、これまでの対面授業よりもややゆっくり進めている。
- ・実習のスピードが早く感じる学生さんもいるようなので、操作を見ながら作業するのではなく、一旦操作を見せた後で一緒に操作していく、という流れにすることで、全体を把握しながら操作しやすくなる。
- ・対面授業だけでは難しいとのことなので、この意見を受けて、講義の動画などで復習できるようにしたり、教科書のどこを参照すればよいかなど、より丁寧に説明したりと、理解しやすい工夫をしている。
- ・はじめに、学生の生活に身近な話題を、時には映像を交えながら説明し、その上で抽象度の高い内容へと移るということになるべく心掛けている。段階を踏むことで、授業内容に対する「とっつきにくさ」が多少和らぎ、それが授業への集中に結びついているようである。
- ・授業内容に入る前に、自分自身の体験を振り返ってそれらを書き出してもらうようにしている。自分の体験や考えたことをもとに授業を聞くことで、理論と具体的な場面が関連づき、理解が深まるように工夫している。
- ・授業の導入時に、授業に関連する内容という条件つきで、最近関心を持った新聞記事をクラス全体に発表（個人プレゼンテーション）させ、これから学習する良い雰囲気づくりに努めている。
- ・授業内容が日常生活にも役立つように例を挙げたり、質問紙などを使って自己分析などを行っている。
- ・理論知と実践知の融合が実感できる学びが重要である。理論で習得した知識との関連を図りながら、学生に学校現場の実際に即した授業づくりを経験させることを重視している。
- ・授業形態（対面・遠隔）にかかわらず、毎回の授業で学生に授業の振り返り等を提出してもらい、その内容を次回に的確にフィードバックする。
- ・テーマごとにその授業の概要を示し、何を学んでほしいのかを解説する。
- ・経営学で歴史の講義をする際に、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか、その意義を考えてもらえるようにしている。過去と現代との接点に触れ、身近で具体的な事例を用いる等、現代的な意義

を意識した内容を心掛ける。

- ・学習意欲のない学生に向けて、今、勉強していることが将来どのようなことに役立つのかを説明するようにしている。
- ・授業内で ICT を活用し、学生の意見等をリアルタイムに取り入れながら相互に関わる授業を復活させた。結果として、理解や力の涵養など学生にとって意義のある授業であると回答があった。
- ・90分の授業にメリハリをつけるため、およそ30分刻みで異なる作業（レクチャー、参考映像視聴、協働作業、ライティング等）を行なう形にしている。
- ・ただ聞くだけでなく、手を動かして自分で考えてもらうために、適宜ワークや板書を入れるようし、メリハリのある授業運営を目指している。
- ・学生からは配布レジュメが不親切で、他授業のように穴抜きのレジュメなどにしてほしいという要望があるが、これについては社会人になるのに各自でメモを取るというトレーニングもしてほしいので、変更する予定はない。
- ・高校時代に日本史を選択していたのかどうかで、知識量に大きな差があると感じている。この点を踏まえ、あまり日本史の知識が豊富でない受講生にとっても分かりやすいように、基本的な事項についても改めて説明する
- ・基礎技能を持たない学生、充分持っている学生、その混在状況の中で、そのいずれにも得るものがあるよう、考慮している。
- ・模擬面接などで、学生にロールプレイを行わせ、実際の就職に関する実演をする。そのことで、将来に向けた意気込みを高めていく。
- ・できる限り学内実習・臨地実習で活用できる技術を、実践的に利用できることを目指し、コンピュータを使った演習を取り入れながら講義している。
- ・事例を多く出すこと、現場の実態を伝えること。これらを通して経営の実際に接近するようにしている。
- ・授業の合間に、人生哲学や生き方の心得、処世術などを織り交ぜて話すと、学生が関心を持って聞いてくれるようになる（このような話を聞く機会は意外と少ないとのこと）。
- ・タイムリーな内容をふんだんに入れながら、臨場感ある授業を心掛ける。

3. 教材作成

* 易しいと感じている学生がやる気を失わないように、もう少し難易度の高い教材を追加し、難しいと感じている学生が学習を投げ出してしまわないように、より丁寧な解説を行い、質問の時間を設け、さらに学習支援室への誘導を進める。

- ・到達目標を明確に示し、難しい説明をなるべく平易に具体的に行う。
- ・身近な事例紹介を増やし、学生の授業内容への関心を高める。
- ・文系学部の学生にとって最低身につけておいてほしい科学の基礎知識は授業で触れながらも、

可能な限り身近な事象を題材として取り上げ数式や化学反応式などを用いた説明は極力さけ、イラストや動画を活用して概念の理解に繋げる。

- ・講義資料は、なるべく図表、写真など視覚に訴える資料を多くし文章を少なくする。
- ・動画等を映写するだけでなく、実物を持参し直接手に触れてもらえるように心がけている
- ・国が運営しているデジタルミュージアムや公的な YouTube 番組へのリンクを提示し、受講生が良質な情報にアクセスできるようにする。
- ・WEB 教材を活用して、個々のペースで発音、聞き取り練習ができるようにしている。
- ・新聞記事やニュース映像等を用いて、可能な限り最新の情報を紹介し、興味をひくようにしている。
- ・学校現場で即活用できるような実践的指導力が身につくように具体的な実践事例を踏まえて授業分析を行う。そのためには全国大会レベルの最新の情報を積極的に収集し、提示する。
- ・板書時間を節約したり、画像やイラスト表示により理解を促したりするために、パワーポイントを利用している。
- ・iPad を活用しテキストを PDF 化したものをプロジェクター提示し、説明を書き込むことによって進行中の内容をわかりやすいように説明することに取り組んでいる。
- ・毎回、授業の様子（PC のスライド挙動・音声）を録画し、TALES 上で公開していつでも閲覧できるようにするなど、復習をしやすい環境を整えている。
- ・欠席者がレジュメ等を入手しやすいように、TALES 上に掲載している。
- ・時代の移り変わりが早く、学生の理解度や興味の方向も一定ではないから、授業で扱うテーマについては毎期検討する。
- ・一つの学問領域の学習なので、その知識や技能の修得が「簡単」ということはあり得ないが、これからも工夫を重ねていく必要がある。
- ・美術史学の場合、「分かりやすい説明」の危険性という問題を挙げておかざるをえません。美術は（学ぶ側が能動的に）目で見て感じる事、理解することが大切で、言語に依存するかたちでの過度の「分かりやすさ」は、避けるべき事態であるからです。よりよき「分かりやすさ」、「目で見て学ぶ」心地よさのために、とくに視覚的情報の充実を、今後も心がけていく。

4. 授業時間等の配分

- ・90分の授業にメリハリをつけるため、およそ30分刻みで異なる作業（レクチャー、参考映像視聴、協働作業、ライティング等）を行なう形にしている。
- ・90分の時間を40分程度の授業 2回の中に10分の休憩を入れるつもりで授業を組み立てる。休憩もいわゆる休み時間ではなく、前半部分の確認で事例問題を出題し、学生同士で相談しながら考え、少し息抜きできる時間としている。
- ・はじめに、学生の生活に身近な話題を、時には映像を交えながら説明し、その上で抽象度の高い内容へと移るということになるべく心掛けている。段階を踏むことで、授業内容に対する「と

つつきにくさ」が多少和らぎ、それが授業への集中に結びついているようである。

- ・ただ聞くだけでなく、手を動かして自分で考えてもらうために、適宜ワークや板書を入れるようし、メリハリのある授業運営を目指している。
- ・学生に質問する。
- ・基本的には、講義形式としているが、なるべく DVD や画像なども活用して、ビジュアル的にわかりやすく説明をするよう心掛けている。

5. 課題の出し方

* 100 字程度の簡単な解答でも生成 AI が利用されているケースが多く、授業課題の問いの答えになっていない解答や両論併記の一般的な模範解答が提出され、コミュニケーションが成立していないと感じることが増えました。

- ・毎授業の終わりに、学校で実際に起こったケースを示し「あなたはどうか考えるか（行動するか）？」を問うケースメソッドを導入している。これは、大学で得られる知識（形式知）と幼小中高等学校での教員経験から得られる知識（暗黙知）の乖離を埋めることを意図するようにしている。
- ・学生の予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたりの平均時間をより増やすため、実験中に実験レポートの作成、特に考察の考え方を毎回指導する。
- ・対面に移行してからも、TALES を使って、資料の掲示やレポート作成をしてもらっている。授業中の質問に加えて、TALES からも質問を受け付けるようにしている。
- ・毎回の授業課題で書かせている「授業内容の要約」から、授業の理解度を確認し、進捗スピードなど注意する。
- ・授業外の学習時間を客観的に測れるように、TALES 上で予習動画の閲覧状況を確認し、練習問題の解答状況もチェックしている。
- ・子どもと本をつなぐ技術として、主に絵本の読みがたり、ブックトーク、POP 作成を体験してもらっているが、最寄りの公共図書館で児童書を借りる等の準備が必要なので、早めに授業スケジュールを認知してもらえるように注意する。
- ・難しい課題内容を頑張って勉強して報告してほしい反面、難しすぎて質問が出にくかったり、意見交換がそもそもできないなどといった事態は回避しなければならないので、参加者全員が課題内容を理解しつつ、意見交換（議論）が成立するような、身近な事例等を扱う。
- ・課題の種類を 2 つに分け、授業の日に、必ずアクセスして取り組んでもらう問題と数日かけて取り組む問題を用意する。問題の種類も、ファイルで提出するものだけではなく、様々な小テスト形式のものを用意し、学生が飽きないように工夫する。
- ・ほぼ毎回「予習課題／予習内容と同一の確認課題／予習内容を応用した実習課題」という 2 種 3 通りの課題を課し、翌週に各自の取り組み状況の講評を行う。予習課題は少しでも取り組んであれば完成度を問わず一律評価とすることを伝えている。このことが授業時間外での自

習を促す仕掛けとして機能している。

- ・授業内容の予習ができるよう、翌週分の資料を1週早く事前配付している。
- ・演習問題をプリントで配っているが、授業内ですべての答えを解説しないようにしている。答えは調べれば分かるものであるため、「調べる」習慣を付けてもらうため。
- ・いつでも、どこでも宿題ができるよう、英語学習のアプリに掲載されている練習問題を課題にしている。
- ・外国語の授業で、スマホ対応補助教材を作成し、気軽に聞き取り・発音練習できるようにしたこと、ほぼ毎時間、授業の冒頭で行う聞き取り・発音テストに備えて、課外学習を行う学生が増えた。

6. フィードバック

- ・なかなか講義の中ではそれぞれの理解を確認することが出来ないために、毎回の講義課題へのコメントを通して把握できるように努めている。
- ・毎回、授業内容に対する受講生のコメントを読み、フィードバックの文書を作成しているが、それをできるだけ早く行い、TALES上に提示する。課題内容を忘れないうちに、他の受講生の意見等を知ること、様々な角度から、当該テーマをより深く検討できるようにする。
- ・毎週「フィードバック」を使って、感想を書いてもらっており、それに公開の形でコメントを授業中に話している。「感想」欄は、コミュニケーションの場としても有効と思う。
- ・前回の課題に対するフィードバックを必ず実施する。特に優れた回答はクラス内で取り上げ、受講生の参加意欲向上に努める。
- ・完成度の高い課題提出物に関しては、学生本人の了解を取った上で、他の受講生の参考になるようにサンプルとして学籍番号や氏名を削除した上でTALESにアップロードする。
- ・発音練習の成果を毎回吹き込んで提出させ、フィードバックしている。
- ・フィードバックを受けるタイミングにおいて、受講者の間で違いが生じないように、いつ、どのようなタイミングで、どのような方法でフィードバックを行うかについて、あらかじめ周知する。

7. 復習と小テスト

【復習】

- ・毎回、授業の様子（PCのスライド挙動・音声）を録画し、TALES上で公開していつでも閲覧できるようにするなど、復習をしやすい環境を整えている。
- ・講義中に復習も含めて解答解説をしている。
- ・データダイエットのために音声付き電子ブックを使用し、何回でも講義を聞けるようにした。

【小テスト】

- ・毎回、授業終了時にその日の内容に関する問題演習（一問一答形式）を行い、内容の確認と理解度のチェックを行っている。
- ・毎回、復習テストを実施し、次の講義時に採点済の答案を返却し、間違った箇所を訂正後に再提出を求めることで学生の理解を助けるようにしている。
- ・毎回の小テストで授業内容の理解を確認したり、授業で扱った問題の演習をしたりしているが、択一式問題は4～5題にとどめ、学生の課題の負担が大きくなりすぎないように注意している。
- ・小テスト（確認テスト）をクイズ感覚でできるようにし、復習がしやすいようにする。
- ・TALES を導入し、授業内で出来なかった国家試験関連問題を小テストとして用意し、各自が解答後に解説を見て復習ができるようにした。
- ・小テストを TALES 上で行い、復習を促すとともに、何度も受験可能な設定にしている。
- ・小テストは期限内なら無制限受験を可能とし、最高点を採用する。
- ・復習がしやすいように、X ドライブを活用して資料をデータとしても入手できるようにしている。

8. 学生参加を促す

- *写メで終わらせようとする学生が年々多くなってきている。
- ・コロナで三年ぶりの実講義である。学生に関心を持ってもらおうと様々な取り組みをしているが、これまでになく反応が鈍い。レポート等を見ると理解はしているが、講師とコミュニケーションが取りづらい。これまで以上に、座学ではなく実践的かつ五感で感じられる講義をめざした。
- ・グループ・アプローチの手法を取り入れた授業を展開している。学生も積極的に参加してくれ、変化を感じる。
- ・クラスの雰囲気慣れてもらえるよう、前半にグループ学習等を多く取り入れお互いの関係性を作り、後半に個別作業を集中させ、個別相談の時間を多くとれるようにした。
- ・机を円の形にし、話しやすいようにしている。
- ・授業が対面に戻ったことで、授業内で Google Forms やロイロノートなど、ICT を活用し、学生の意見等をリアルタイムに取り入れながら相互に関わる授業を復活させた結果、理解や力の涵養など学生にとって意義のある授業であると回答があった。
- ・Zoom の投票機能や Google Forms によるアンケートを用いることで、講義で扱う内容に直接参加できる体験型の講義を行う。
- ・学生間の相互の学び合いのために、課題で出た意見の紹介・フィードバック、グループワーク、発表の際の学生同士のコメント交換などの機会を授業内で確保している。
- ・TALES では掲示板も設定できるので、視聴覚教材の感想や質問をそこに投稿するよう設定し、

教員と学生との二者間ではなく多者間で知識を共有する。

- ・履修人数が多いためになかなか全体での意見交流ができないので、できるだけ毎回講義の最初に前回の講義課題で出された主な意見について紹介し、その良さを説明している。
- ・小規模の演習科目では、発表者に事前にテーマを公表させ、発表者以外の学生に予習を促し、必ず全員でそのテーマについてディスカッションするようにしている。これによって学生の授業参加意欲が高まっているように思う。
- ・担当箇所を割り当て、その箇所だけでも責任を持って説明できるように準備してくるシステムを作っている。
- ・語学の授業中に、極力受講生に発音させるようにしているのだが、その際、マイクを通して教室全体によく聞こえるように発音させることで、真剣に練習するようになった。
- ・自ら調べ、まとめ、伝える能力をつけるために、初回オリエンテーション時に担当学生を決め、学生に教師役として授業を実施してもらっている。
- ・演習では可能な限り 2～3 名の少人数で一つのプロジェクトに取り組みせ、内容にコミットしない学生が出ないように気をつけている。
- ・チームで作業をさせて、学生一人ひとりに責任を持たせるようにしている。
- ・ディスカッションが円滑に進むために、発表者には必ず「ディスカッションの種」を用意してもらう。ゼミ生同士が積極的に意見交換を行い、最後には参加者がそれぞれコメントシート（1. おもしろかったこと、2. もっと知りたいこと、3. その他、応援のメッセージ）を作成する。後日、教員がチェックし、発表者に返却する。
- ・学生のプレゼンテーションが行われている際にスマートフォンで Google フォームを利用し、学生同士でプレゼンテーションの評価ができるシステムを使用している。
- ・学生が考える時間が持てるよう、話し方に「間」を取るように心がけている。
- ・演習において、発表者に対する意見・コメントを言ってもらう際、安心して意見が言えるような雰囲気を作るため、発言する順番は授業の最初にくじ引きで決めている。
- ・回答までに○分などタイマーで時間を管理しながら、各自もしくはグループで問いに対する回答を考える時間を設けた後に、回答者を選出している。回答者の選出は、名前カードを用いて抽選にしているので、一定の緊張感があるようだ。
- ・ゼミにおいて、全員が発言できるような課題を設定している。
- ・時間内に可能な限り全ての学生が口頭発表、チャット、発言、質問など何らかの形で参加できるように工夫する。
- ・「分からない」は認めず、正誤ではなく、自分自身の頭で考えた答え（考え、感情、経験等）を必ず答えるように、答えられるような質問を用いて、できるだけ毎時間全員に問いかけ、自分の頭で考え発信する機会を設けている。
- ・できるだけ多くの学生を指名し、授業に参加させる。
- ・講義が中心であるが、質問を多くしてなるべく学生に考えさせてから答えを教えるようにしている。

- ・一方的な講義にならないように、学生に質問し、挙手して発言した学生にポイントを与えている。

9. 学修レベルのアップ

- ・課題やクイズ等のフィードバックを丁寧に行い、学生の理解を促す。
- ・毎週の課題と並行して個人で設定しているテーマによる探究レポートの作成について、個別に情報提供等のサポートを行う。
- ・管理栄養士を目指す学生たちによりモチベーションが上がるように他の講義、実験、実習との関連などを意識させて基礎的な内容が将来につながっていることを認識してもらう。
- ・原論科目のため、歴史や哲学、思想に加え、現代の事象や問題等、広く深い内容を扱う授業のため、いかに「自分事」として捉え、思考するかを目標に授業を展開している。そのため、難しいと感じていると回答しながらも、意欲的に授業に取り組み、授業の到達目標に向けて力がついてきている、意義がある等と回答されているので、今後も、学生の状況を丁寧に把握しながら授業を継続していきたい。
- ・演習中にわからない部分を友人に尋ねて解決するケースはお互いの学びあいのために良いことではあるが、間違いを教えあうこともある。困っている様子の学生に対して、演習時の巡回中により一層声がけを行い、学生からの説明を傾聴しつつ解決へのアドバイスに努めていきたい。
- ・オンライン英語学習ツール「Duolingo」「Words & Monsters」「M-Reader」を使用した授業外学習を積極的に勉強している学生がいる一方で、これらのツールでほとんど勉強していない学生もいることに気づいた。今後はこれらのツールの良さをもっと分かりやすく説明をし、時間のあるときに利用するように促していきたい。
- ・ゼミ生にはゼミでこれを学んだと自信を持って言える課題を設定し、多少困難な課題にも取り組んでもらいたい。
- ・「授業の難易度」について、「やや易しい」と答えた学生が少数ではあるが居たため、少し難易度の調整を図ることが必要であると感じた。授業は「やや難しい」と回答されることが好ましいと考えている。
- ・学生からは配布レジュメが不親切で、他授業のように穴抜きのレジュメなどにしてほしいという要望があるが、これについては社会人になるのに各自でメモを取るというトレーニングもしてほしいので、変更する予定はない。

10. 学生対応と質疑応答と学習支援

【学生対応】

- ・最近の学生は人見知りする傾向が見られるので、教員に対して質問しやすい環境づくりが大切

ではないかと感じる。たとえば、それはフレンドリーな接し方であったり、堅苦しい説明ではなく砕けた説明を通じて、概念的なものをより具体的で身近な感覚から理解できるようにすることであったり、そうした工夫を今後、さらに重ねていくことが必要だと思う。そのためには、ある程度、こちらから学生に寄せたアプローチも採るべきであり、そうすることでコミュニケーションがとりやすくなり、質問したり感想を述べたりする機会を増やすことにつながるのではないかと考える。

- ・個人的に思うこととして、もう少し学生との接点を増やすように心がけることが大切だろうと感じている。最近の学生は人見知りする傾向があり、教員と接することにやや億劫になっている印象を受ける。しかし、話してみると色々、考えていることがあって、なかなかそれが面白かったりするので、こちらから学生に歩み寄る努力も必要だと思う。
- ・難しい話を極限まで簡単に、ほめて伸ばす、ときに厳しく。

【質疑応答】

- ・授業以外の時間に教員のサポートが受けられないと回答した学生が約 16%おり、メールやオフィスアワーで教員とコンタクトが取れることを学生に再度リマインドすることが必要だとわかった。
- ・毎回の感想文（TALES）において質問の項目を設けている。授業内で困ったことや、練習の方法、種目のルール等、不明点があれば次回授業の冒頭で説明を行なっている。直接質問ができない学生もいると考えられることから、今後も TALES を活用し、参加しやすい雰囲気づくりを心がけていく。
- ・質問には個人の進捗に合わせて説明している。

【学習支援】

- * 100 人規模の授業では、授業内容の難易度や進度の適切性にばらつきがあるので、授業時間内での理解が少し難しい学生に対しては、TALES の補助教材を用いたりカバリー方法を具体的に伝える等の工夫を行う。
- ・感想や質問を書いてもらう機会を増やし、そこでのコメントから学生が行き詰っている個所を見つけるようにして、それに対応する。

11. その他

- * マイクの状態の確認をしっかりとする。
- * 指定席か自由席にするかの判断を状況に応じて適切に行う。
- ・今年の授業ではコメントシートに要望などを書く学生も少ないため、少数意見を拾えていない側面がある。要望などを普段から匿名で集めるなどの方法も検討したい。

Ⅱ. 学生ヒアリング

Ⅱ. 学生ヒアリングについて

1. 学生ヒアリングの実施

授業改善アンケートを中心に、授業、大学で学ぶ環境に関する学生の意見を聴く機会として、授業改善アンケート（11/25～12/7）以降に学生ヒアリングを実施した。各学部または学科のFD推進委員が、各学部・学科 10 名程度の学生を対象にヒアリングし、下記の項目についての意見を聴取した。

【ヒアリング項目】

- ・授業改善アンケートについて
（実施時期、設定質問項目数、質問内容、その他：実施方法について）
- ・シラバスについて
（記載方法や項目等について）
- ・その他 授業や学習環境について
（日頃受講している授業、あるいは学習環境に対しての意見、要望等）

2. 学生ヒアリングの結果への対応

学生ヒアリングの集計結果については、FD 推進委員会で報告し、情報共有を行った。その上で各学部長に報告し、学部または学科で必要と思われる事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼した。また、単学部・単学科に留まらない事項については、全学教育開発センターFD推進検討チームで対応案を作成し、FD 推進委員会で検討した。

3. 学生ヒアリング結果

（1）授業アンケートについて

ア. 実施時期について（→現状のままだが妥当）

- | | |
|-------------------------|--|
| （文学部） | ・適切である。（9 名）
・改善点を伝えるタイミングとしてはもう少し早い方がよいと思う。（1 名） |
| （法学部） | ・適切 8 ・早い 1 ・遅い 1 ・その他 |
| （心理学部） | ・適切である、不都合はないといった肯定的な意見であった。 |
| （現代生活学部
/食物栄養学科） | ・はい 6 、いいえ 3（3 名とも改善のためにはもう少し早い時期がよいと回答した。） |
| （現代生活学部
/居住空間デザイン学科） | ・はい 10, いいえ 0 |

- (教育学部) ・10名中9名が適切と答えた。学生からは次のような声があった。「全体を通した上でアンケートをした方が今後にもつながると思う。改善を求めるなら少し遅いとも思うので10月末から11月初旬または末の方がよいと思う」「15回あるので、半分(7～9)あたりで行った方がよいと思う」

イ. 設問項目数について (→現状のままだが妥当)

- (文学部) ・適切である。(10名)
- (法学部) ・適切9 ・多い1 ・少ない ・その他
- (心理学部) ・ほとんどの授業で回答を求められるが、今の項目数であれば負担は感じないため、適切であると思うという意見であった。
- (現代生活学部
/食物栄養学科) ・はい 8、いいえ 1 (よく考えずに回答する学生がいるため、選択肢に「何も思わない」がないと、結果と実態が合わないと思う。)
- (現代生活学部
/居住空間デザイン学科) ・はい 9、いいえ 1
(「いいえ」と答えた人はどういう項目が必要と感じましたか) 10問くらいにしてほしい。
- (教育学部) ・10名中6名が適切と答えた。学生からは次のような声があった。
「質問が多すぎると最後の方が雑になるので10問ほどにしてほしい」「毎授業で行うので、最後方は適当になってしまった。もう少し、少なくとも良いと思った」「量が多い」「出来るならもう少し減らす」

ウ. 質問内容について (→現状のままだが妥当)

- (文学部) ・適切である。(10名)
- (経済経営学部) ・授業環境が改善できるのでよい
・匿名のものは正直な意見を記入しやすい。
- (法学部) ・適切9 ・多い1 ・少ない ・その他
- (心理学部) ・特に分かりにくい質問もなく、問題はないように思うとの意見であった。
- (現代生活学部
/食物栄養学科) ・はい 9、いいえ 0
- (現代生活学部
/居住空間デザイン学科) ・はい 10、いいえ 0

(教育学部)

- ・ 10 名中 8 名が適切と答えた。学生からは次のような声があった。「科目によって質問内容を変えた方が答えやすいと思う」「この授業の意義については、そこまで深く考えていないので、聞く必要はありますか?」「内容としては必要かどうか微妙なものもあるので、少し変えてみるのもよいかも知れないと思った」「難易度は人それぞれだから聞いてもあまり変わらないと思う」

工. その他

(文学部)

- ・ 授業時間内でアンケートを入力する時間を設けてもらえないと失念してしまう。

- ・ 自由コメント欄で授業に関する要望などをどの程度書いていいのか悩む。

- ・ 授業アンケートとは別に、授業で困っていることや改善してほしいことなどを匿名で伝えられるシステムがあったらありがたい。

(経済経営学部)

- ・ 授業環境が改善できるのでよい。

- ・ 匿名のものは正直な意見を記入しやすい。

(法学部)

- ・ もう少し全教授たちからこのアンケートの重要性を学生に伝えてもよいと思いました。

- ・ 授業改善アンケートについては、試験の終了の際、又は、15 回目の授業終了時に実施すべきだと考える。授業の中間地点でアンケートを実施することも良いが、やはり、最後の授業や試験の終了後の実施することで、授業全体を通して、アンケートを回答することができると、私は考える。

- ・ もう少し早めに実施してほしいです。

(心理学部)

- ・ 講義時間内に実施してくれない授業があり、回答を忘れてしまう。

- ・ 個人特定されることはないとわかっているが、学生が少数の授業では何となく回答することに抵抗がある。

(現代生活学部

- ・ リレー科目のアンケートも実施してほしい。(2 名)

/食物栄養学科)

- ・ 短時間で終わるので回答しやすい。

(教育学部)

学生からは次のような声があった。「授業外だと忘れてしまうから、全て授業内でしてほしい」「3～5 回の早い段階でアンケートしても良いと思う。悪い、嫌な授業を 11 回目まで行うのは、良くないと思う」

(2) シラバスについて

シラバスの記載方法や項目等について、わかりにくい部分がありますか。

- | | |
|-------------------------|--|
| (文学部) | ・ 特にない。(10 名)
・ 履修を検討するときの参考になる。履修中は成績評価方法などを確認するぐらいであまり見直さない。 |
| (経済経営学部) | ・ シラバスに書かれている授業内の評価点の付け方に実際と異なるものがあった。 |
| (法学部) | ・ 民法 C 学習方法と内容について、学生によるアウトプットとフィードバックとなっており、もう少し、講義でどのような取り組みをしているのかを書いてほしい。
・ 実践的中小企業経営法務 課題等シラバスでは分かりにくい。
・ 民法 A 民法系は基本説明というより動画を見るという感じなのでシラバスの内容とは少し違う。 |
| (心理学部) | ・ 内容に不満はないが、そもそもシラバス検索が使いにくい。
・ TALES のコース内にシラバスを置いてもらえると目にする機会が増えると思う。 |
| (現代生活学部
/食物栄養学科) | はい 4
・ 「食物栄養学科」で検索できない。(3 名)
・ スマートフォンで使いにくい。(2 名)
・ 詳細画面に移動すると科目名が表示されなくなるため、スクリーンショットを保存しているがどの科目かわからなくなる。(2 名)
・ TALES から閲覧できるようにしてほしい。
・ 成績評価の確認の頻度が高いため、その部分がすぐに見られるようにしてほしい。(2 名) |
| (現代生活学部
/居住空間デザイン学科) | いいえ 5
はい 5
・ 検索してもヒットしない。
・ 授業コードを調べて入力が面倒。
・ 学部やキャンパスを入れても何もヒットしない。
・ 見つらい。
・ もっと見やすくしてほしい。
・ 授業回数と内容がずれている科目があった。 |
| (教育学部) | いいえ 5
・ 10 名中 2 名がわかりにくい部分が「ある」と答えた。学生からは次のような声があった。「シラバスを見ようとしても、調べにくくて、途中で諦めてしまう。調べやすくしてほしい」「今回、実習で 3 回ほど休んでいましたが、予習・復習 |

の欄をもっと詳しく書いてくれたら有り難い」「授業方法などをもう少し具体的に知りたい」

(3) その他、授業や学習環境について

日頃受講している授業、あるいは学習環境に対しての意見や要望はありますか。

(文学部)

- ・時間割で履修したいと思う科目が同じ時間帯で重なっていることが多く、曜日によって偏りがあるように感じる。
- ・1号館のWi-Fiがつながりにくくて困っている。

(経済経営学部)

- ・いくつか壊れた机がある。(直して欲しい。4号館)
- ・ネット上での出席申告はとても便利であるが、不正が生じやすい。
- ・授業最後に紙ベースの出欠をとった方が学生の態度なども把握できるのではないか。
- ・授業で内容についてグループディスカッションを実施してみるのはいかがでしょうかと思う。
- ・問題を解く時間を与えてくれる先生や速めのテンポで授業を進める先生もいて、ついていけている授業とついていけない授業がある。説明はわかりやすい。
- ・座学の授業は進行方向が極端になりがちで、学生側の理解に差が生じやすい。
- ・双方向的な学習のできる授業では、問題点や他者の意見・考え方の違いをイメージしやすいため、より体系的に理解していけると思うので増やして行くべきだと思う。
- ・例えば観光ビジネス入門(近鉄講座)の場合、実際の実践の方の講義なので貴重な話を聞ける。すごくよい。

(法学部)

- ・発表をする授業や基礎演習などで、発表者が発表している際に、学生が携帯電話でゲームやSNSをしているのが見受けられる。その際、担当教員から、注意をしてほしい。発表者が作ってきた資料に目を通さずに、長時間、スマホを触るのは失礼だと考える。
- ・私語注意とかもっと厳しくしてほしい、それ以外は大丈夫です。

(心理学部)

- ・自習できるスペースを増やしてほしい。
- ・フリースペースが学生ホールだけでは足りないように思う。
- ・キャンパススクエアなどで自分の出席率を確認したい。きちんと公欠扱いになっているかも確認したい。
- ・東生駒の体育館にもエアコンをつけてほしい。スポーツの授業が大変である。

(現代生活学部 /食物栄養学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・学園前キャンパスの Wi-Fi が不安定のように感じる。電波の届かないエリアが多い。 ・学園前キャンパス内のコンビニを改善してほしい。 ・TALES の科目選択を行う際にダッシュボードに戻らなければならないのが不便である。科目を選択するところを設定してほしい。 ・連続する授業の教室間の距離が遠いことがあり、休み時間の余裕がない。 ・非常勤の先生への質問がすぐにできない。 ・出席登録で不正ができないようにしてほしい。 ・静かな環境で自由に自習できる場所がほしい。 ・栄養価計算ができる教室を増やしてほしい。(2名) ・貸出パソコンに Windows11 を入れてほしい。 ・貸出パソコンの充電がすぐになくなって困る。
(現代生活学部 /居住空間デザイン学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン室が1部屋もあいていない日がある。 ・Adobe がインストールされているパソコンが少ない。 ・パソコンもしくはパソコン教室を増やしてほしい。
(教育学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・10名中3名が意見や要望が「ある」と答えた。学生からは次のような声があった。「自主学習できる部屋がもう少しあった方が残って勉強しようという気持ちになれる」「Wi-Fi が少し弱いので、つながりにくい。16号館に比べて食堂のメニューが違いすぎる」「お金を使って印刷できるコピー機がほしい」「Wi-Fi のつながりを改善してほしい」「パソコン室の利用時間をもう少し長くしてほしい」「1階のカフェでのルールを作してほしい」「イスが固いので柔らかくしてほしい」

4. 学生ヒアリング結果の検討

2025年2月13日開催の第10回FD推進委員会において、前記の学生ヒアリング結果が報告された。その際、各事項について対応部署が明確にされ、各学部・学科等で直接対応するのがふさわしい事項については、2月21日付で、FD推進委員会から各学部長に資料を送付し、対応を依頼した。

■全学教育開発センターFD推進検討チームでの検討結果等

(1) 授業改善アンケートについて

ア. 実施時期について

ほとんど「適切である」との意見が多かった。現行のアンケートは学期内の授業改善を目的と

しており、授業の中盤に実施し、その結果をふまえた後半の授業改善を期待するものである。それは、授業開講後すぐに実施した場合、授業が必ずしも軌道にのっておらず、受講生も当該授業の全体像を把握していない場合もあると考えられ、授業の中盤に実施するのが適切であるとする。また、TALESを活用したことにより、結果の集計が迅速に行われるようになり、早期の授業改善に役立つようになった。

イ. 設問項目数について

「適切である」との意見が多く、次年度も現行の設問項目数とする。

ウ. 質問内容について

「適切である」との意見が多く、次年度も現行の質問内容を行う。

(2) シラバスについて

ア. シラバスの記載方法や項目等について

スマホでの操作性・視認性向上、TALESからシラバスへのリンク等の技術的な要望については、関連部署と連携し検討する。また、シラバスの記載事項（担当者のメールアドレスの明記、実際に使用する教科書等）や平易な表現については、教学支援課を通して、シラバス作成時の注意点を徹底する。

(3) その他 授業や学習環境について

ア. 日頃受講している授業、あるいは学習環境に対して

授業運営に関する要望については、各学部長を通じて各教員に改善を依頼した。また、教室の機器の故障や不具合については、点検し修理した。その他、修繕を伴うような教室設備や機器に関しては、学生からの要望の度合や授業運営等を考慮し検討する。

Ⅲ. FDフォーラム

Ⅲ. F Dフォーラムについて

本学では、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教育職員、事務職員などに必要な知識および技能を習得させ、その能力および資質を向上させることを目的としたSD研修を積極的に行っている。また、F D (Faculty Development) 活動の一環として、年2回F Dフォーラムを実施し、教員の教育方法の改善を通じて質の高い授業の実践に取り組んでいる。

2024 年度、全学教育開発センターでは計 2 回の F D フォーラムを開催した（うち 1 回は教職員研修会との共催）。また、外部の F D フォーラムについても積極的な参加を呼びかけた。詳細は、以下のとおりである。

1. 第 1 回 F D フォーラム (2024 年 9 月 18 日)

日 時：2024 年 9 月 18 日（水）10：30～12：00
演 題：「卒業生アンケート集計結果を教育改善に活かす」
登壇者：【集計結果の分析・解説】岩井 洋（全学教育開発センター）
【コメンテーター】飛世 昭裕（副学長・法学部長、教務委員長）
【ファシリテーター】谷 美奈（全学教育開発センター）
形 式：対面形式で実施
対象者：本学教職員
参加者：教員 55 名、事務職員 15 名

2024 年 9 月 18 日、東生駒キャンパスにて「卒業生アンケート集計結果を教育改善に活かす」と題して第 1 回 FD フォーラムを開催した。5 年ぶりの対面形式となった本フォーラムには計 70 名の教職員が参加し、活発な意見交換が行われた。

最初に、全学教育開発センターの岩井洋教授が卒業生アンケートの集計結果を分析し、その経年変化を解説した。岩井教授は、2023 年度卒業生調査で 92.9%もの卒業生が本学の教育に満足している（満足・やや満足の合計）という事実に触れ、「プロジェクト型学習が好影響を与えているという現場での実感がある。これらのデータをさらに詳細に分析することで、より一層の授業改善につなげていきたい」と述べた。また、データと同時に、実際の学生の動向にも注意深く目を向けていく必要があるとの見解が示された。

その後、全学教育開発センターの谷美奈教授をファシリテーターにして、参加者はグループワークを行った。異なる学部や部署で 4 人ずつのグループに分かれ、それぞれの立場から教育改善に向けての方策を探った。「資格取得課程のある学部は学習のプロセスが明確。それがより高い満足度に寄与しているように思う」「学生に自身の理解度を実感してもらうためにシラ

バスをプロジェクト主体に変更するなどの工夫を加えた」「成果を公表し、学生自身に成長を気づかせる機会が必要」など、教育改善に向けた具体的な意見が多数寄せられた。

フォーラムの最後には飛世昭裕副学長が講評を行い、「学生との個別のかかわりを増やし、彼ら彼女らの本音を引き出すことが本学の目指す「面倒見のよい教育」ではないか。10年後20年後にでも学生の胸に残っているような言葉やできごとを積み重ねていきたい」と話した。そして、今回のように学部を超えた意見交換の重要性を強調し、教育の質を一層向上させていく意欲が示された。

2. 教職員研修会及び第2回FDフォーラム（2025年2月19日）

日 時：2025年2月19日（水）10：30～11：30
演 題：「現代の大学生の心理的特徴と発達課題」
講 師：平子 侑里絵（東生駒キャンパス学生相談室カウンセラー）
形 式：ウェビナーによるオンライン講演形式
対象者：本学教職員、非常勤講師
参加者：教員 60 名（うち非常勤講師 10 名）、事務職員 25 名

2025年2月19日、学生相談室主催の教職員研修会との共催で第2回FDフォーラムを開催した。「現代の大学生の心理的特徴と発達課題」をテーマにウェビナー形式で実施し、80人を超える教職員が参加し、現代の学生を支援する方法について活発に意見を交わした。

当日は、東生駒キャンパス学生相談室のカウンセラーである平子侑里絵氏が講師を務め、大学生が抱える心理的課題や発達の側面を深く掘り下げた。デジタルネイティブやZ世代と呼ばれる大学生の特性に触れ、現代の学生が直面する具体的な事例が紹介された。

最近の学生は、SNSやインターネットの影響から興味の幅が狭まり、自分が無駄だと思う時間を過ごすことへの耐性が低くなっている傾向がある。また、感情を表に出さない学生が増え、対応には想像力が求められるようになっている。特に、自己肯定感が低い学生や対人関係で摩擦を避けがちな学生には、対面での居場所支援が効果的だと強調され、一人ひとりに寄り添った支援のためには教職員同士の連携が不可欠であることがあらためて確認された。質疑応答では、授業運営に関する質問が相次ぎ、講師からは授業内容の工夫や評価基準の一貫性、学生を褒めて認める重要性について実践的なアドバイスが示された。

このように、今回のFDフォーラムでは、現代の学生に対応するための具体的な支援方法が共有され、参加した教職員は今後の教育活動に生かせる貴重な知見を得ることができたといえる。

3. 外部団体主催のFDフォーラム

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催する第30回FDフォーラム（2025年3月1日（土）、2日（日）／対面実施）への積極的な参加を呼びかけ、以下の2名が参加した。

- | | |
|---------|--------------|
| ● 鈴木 卓治 | 全学教育開発センター教授 |
| ● 中島 剛 | 事務職員（教学支援課） |

IV. 公開授業

IV. 公開授業について

1. 公開授業の実施

各学部および全学教育開発センターにて授業を公開する教員を選出し、以下のとおり6月・7月に公開授業を実施した。専任教員の参観申込率は99%、参観者の参観シート提出率は94.7%であった。

授業科目名	担当者	授業日	開講 キャンパス
教育方法論-1(2)	松浦 真理	6/4 (火) 1 限	学園前
心理学研究法	富田 瑛智	6/4 (火) 4 限	学園前
財務会計論	近藤 江美	6/6 (木) 2 限	東生駒
特殊講義 (日本の伝統文化)	恵阪 悟	6/7 (金) 2 限	東生駒
英米法	佐野 隆	6/11 (火) 3 限	東生駒
臨床栄養学 I 【2】	阿部 咲子	6/12 (水) 3 限	学園前
司法・犯罪心理学	近藤 隆夫	6/13 (木) 1 限	学園前
財務管理論	金 東吉	6/13 (木) 3 限	東生駒
国際人権法	末吉 洋文	6/18 (火) 1 限	東生駒
英語 A-C(1a)	奥村 玲香	6/19 (水) 3 限	東生駒
算数科教育法 (2) 算数科教育法 (1)	城田 直彦	6/24 (月) 1 限 6/24 (月) 2 限 (※1)	学園前
英語 A-S(2)	三村 仁彦	6/26 (水) 3 限	東生駒
基礎表現実習 I (1)	安井 悦子	6/27 (木) 3・4 限 (※2)	学園前
日本文学特講 C (中世文学)	中川 真弓	7/1 (月) 2 限	東生駒

(※1) 1 限または 2 限のどちらに参加しても可 (同じ授業内容)

(※2) 3・4 限連続の授業

公開授業検討会

参観者は、参観した授業の「授業運営において学んだこと・参考になったこと」、「授業運営について質問したいこと」および「この授業がよりよいものになるようなアイディア」(あれば)を参観シートに記載して提出した。これを基に、公開授業後に開催された各学部教授会

および全学教育開発センター教員会議において、以下のとおり報告ならびに意見交換が行われた。その結果を受けて、FD 推進委員会においても検討会が実施された。

文学部

1. 検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第4回 教授会	7月17日（水）	12名／13名

2. 検討会で出された意見など

○6/7（金）2限「特殊講義（日本の伝統文化）」

▼授業参観者の意見

- ・パワーポイントで画像を示しながら説明していて、学生の興味を引いていた。古文書などの難解な資料についても画像を交えてわかりやすく解説していた。
- ・声の出し方や話すスピードを学生の理解に合わせて、丁寧にされていた点が参考になった。自分の授業でももっとゆっくり説明した方が学生は理解しやすいだろうと考えた。

▼授業公開者の意見

- ・他学部の参観者から、一方通行的な授業になっていないかというご指摘をいただいた。双方向にやりとりできる工夫を考えたい。

○7/1（月）2限「日本文学特講C（中世文学）」

▼授業参観者の意見

- ・テーマに沿って回を重ねていて、パターンができていてわかりやすかった。
- ・難解で学生に馴染みのない作品の位置づけについて、繰り返し丁寧に説明している点が参考になった。
- ・配布資料に細かい情報を載せていて、資料に基づいて授業が進んでいくのでわかりやすかった。
- ・到達目標の「授業を能動的に受講し、課題にそれを反映させることができる」という点に関連して、理解度をどのように測っているかを教えてほしい。
- ・感想シートの内容はどのように設定されているか。フィードバックはどのようにされているか。
- ・遅刻者に対してどのように対応されているか。

▼授業公開者の意見

- ・授業の最後に書かせる感想カードでは「前の作品と次の作品の比較」といったテーマを設けることもあり、振り返りとつながりができるように意図している。感想カードの記述内容は成績に反映し、質問などについては次回の授業のはじめに取り上げて対応している。
- ・奈良との関係など、学生の興味を引きやすいポイントに触れるようにしている。
- ・遅刻者については、授業の最初に出席登録をして、遅れている度合いをはかるようにしているが、個別の注意は、授業に迷惑をかけているような場合に限って行っている。

経済経営学部

1. 検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第7回 教授会	9月18日（水曜）	15名／18名

2. 検討会で出された意見など

【財務会計論（近藤 江美 先生）】

▼ 授業公開先生の意見

- 会計科目という科目柄もあり、講義内容を習得させるために問題演習を行う。
- 数字は計算が苦手な学生のために反復的に行い、クイズや小テスト、課題などを実施して多面的に評価するようにしている。
- 最後の確認テストでは勉強することを目的に A3 の白紙 1 枚を配布して事前に勉強した内容をまとめてきたものを持ち込み可として、テストを実施する。
- 履修者は 55 名程度のクラス規模である。

▼ 授業参観先生の意見

- 毎回クイズや小テストに対するフォローが手厚く、工夫なところが参考になった。
- インターネットから得られる企業の会計情報を紹介したり、会計に興味・関心を持たせるような仕掛けるところ。

【財務管理論（金 東吉 先生）】

▼ 授業公開先生の意見

- 入門レベルの書籍をテキストとして指定している。履修生は事前に該当する章を呼んでくることがを要求している。
- 毎回、従業後 Tales で小テストを行っている。小テストでは、テキスト内容を半分、当該講義で紹介した理論や事例が半分ずつ出願される。
- 予習に対するモチベーションアップや当該従業の理解度を高めるためである。
- 成績評価は小テスト 60%、期末試験 30%、出席点数 10% の配分。出席を成績に反映することを明言しているので、出席率は概ね高い。

▼ 授業参観先生の意見

- 授業では学生が事前に授業該当する部分を予習してくるので、講義の理解度が深まるように見える。
- 担当教員の起業経験などが生々して説明されるので、積極的な学生の参加、学生自身がかんがえるような充実した授業になっている。
- 学生のやる気を引き出す。

法学部

1. 検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第6回 教授会	9月18日（水）	13名／13名

2. 検討会で出された意見など

▼授業公開者の意見

・学生の出席を促すため、TALES で課す課題と教室で課す課題を分けるようにしている。法学部の一般的な実定法の科目とは分野が大きく異なるため、学生の関心と学力を考慮し、具体的なルールよりも制度の全体像の説明に注力している。課題の難易度に差をつけ、学力レベルの低い学生も努力して課題に取り組めば合格できるようにしており、その合格の道筋をはじめから学生に明示している。授業内で課題解答時間と質問時間をなるべく設けている。

・最近の出来事・ニュースを多く取り上げ、授業内容と実生活を結び付けて教育することによって、学生の勉学の意欲を高める努力をしている。また、月に1回、レポート課題を課すことによって、学生に探求する力を付けさせている。知識の定着はまだ不十分ではあるが、確認テストで学生の理解度の把握に努めている。

▼授業参観者の意見

・TALES の参照資料が豊富で、タイムリーな情報が多く、感心した。
・最新の動向を取り込んだオリジナルな講義資料が印象的で、また、PC を持ち込んでノートを取ったり、課題に取り組んだりする学生が多かった。

▼検討会の要点

今回の検討会では、グローバルな視野を広げる意味では重要であるが、進路への関連性がやや弱い両科目について、学生の学習意欲の喚起、授業内容のアレンジとその狙い、課題の難易度設定と学生の理解度確認を中心に、議論が活発に行われた。とくに、講義資料の工夫とアップデート、課題提出に関して TALES と教室を使い分ける方法が検討会参加者から関心を集めた。

心理学部

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第6回 教授会	9月11日（水）	11名／11名

2. 検討会で出された意見など

公開者の意見（工夫等）

・概念の理解を深めるため、教員の実務経験に基づく事例を提示し、より実践的なイメージが持てるように工夫している。
・一般的には座学で扱われやすいテーマ（心理学研究法）を、できるだけ体験型の課題に落とし込んでいる。

- ・授業中に、学生の意見をリアルタイムに聴取し、質疑応答を実施している（TALES や Google フォームなどを活用している）。
- ・授業資料は事前に TALES で公開し、予習できるようにしている。資料には空白を作り、そこに番号を割り振り、板書の際の指示に活用している。

参観者の意見

- ・授業テーマ（司法・犯罪心理学）の特徴から、学生の生活に直接有益な知識が組み込まれていた。
- ・現在は公開者が担当している授業を以前に担当していた経験があるが、自分にはないアイデアで運営していたのでとても参考になった。
- ・前回の授業の復習が授業前半にきちんと行われている。
- ・座席指定することで学生が静かに受講している印象であった
- ・他学部の授業に参加したが、心理学部とは違う工夫がみられ（例えば、食物栄養学科の授業で行われていた流動食の実物の閲覧）、参考になった。

上記の意見を基に、授業レベルや資料の取り扱い、課題の提示やフィードバックなどについて、各教員の授業での工夫や試行錯誤している点が議論された。

現代生活学部

1. 検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第4回 教授会	7月17日（水）	21名／21名

2. 検討会で出された意見など

現代生活学部から提供した2つの授業ならびにその他の授業について、意見交換を行った。

▼基礎表現実習Ⅰ

（授業の概要）1年生対象 平面の抽象表現を行った。フロッターージュと呼ばれるボコボコしたところに紙を乗せ、鉛筆などで写し取ったものを立体に貼り付ける実習を行った。

（担当者）

- ・抽象表現を学生に伝えるのが難しい。
- ・複数の教員や助手で学生に対して個別対応している。
- ・同じテーマでも学生によって表現が異なるため、お互いに吸収し合う。失敗も糧になる。

（参観者）

- ・イメージの出し方を感覚的に伝えるのは難しく、学生に伝わりづらいと感じた。
- ・複数の教員で対応している点が良いと思った。
- ・抽象表現は難しいが、とても重要である。
- ・今の学生は高校時代に学んでいない内容であるため、1年生で学生間の差を埋めることが重要である。

▼臨床栄養学Ⅰ

(授業の概要) 2 年生対象 胃や腸から栄養を投与方法について講義した。前回の復習→本題→課題の流れで行った。目標は国家試験や病院実習で必要な知識を学生が修得することとした。

(担当者)

- ・参観シートの参考になったこととして、授業にメリハリがある、時間配分、聞き取りやすい声、資料が充実している、ねらいが明確の項目が挙げられていた。

(参観者)

- ・ゆったりと時間を使って進めることができていた。
- ・その日に学んだことを最後に試験しているところが良かった。
- ・テンポの良い授業で良かった。
- ・資格に関与した授業であるところに難しさを感じた。

▼他学部の授業

- ・その日の授業のテーマについて学生が隣の人と話し合う時間が良かった。
- ・課題提出率の向上のため、全員の提出の有無と評価結果をスライドに映していた。

学生にとって受け取りやすい言葉を使っていたため、重たい雰囲気になっていなかった。

教育学部

1. 検討会を行った教授会等について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 4 回教育学部マネジメント会議	7 月 17 日（水）	12 名／12 名

2. 検討会で出された意見など

検討会では多くの意見が出された。以下、その抜粋である。固有名詞は A 教員、B 教員などとした。

- ・ A 教員の授業を参観した。資料・テキストの使い方と豊富さやる気があるものはもっと見るように考えられていると感じた。A 教員の独特の優しい語りかけは私には出来ない。
- ・ 自身の授業で学生に一つのことを理解させるために施行錯誤している。A 教員の授業は学習の理解を深めるために、発問・新聞の教材の提示・意見交換・振り返りがテンポよく展開されており学生がこうやって学んでいくと大変勉強になった。
- ・ A 教員の授業を参観。板書の使い方に興味をひかれた。18 号館の教育環境、講義室・演習室等の教育的意図を構造的に板書しており見やすい。板書に学生を参加させているところが参考になった。
- ・ A 教員の授業を参観した。教材研究や共同的に学ぶこと、思考を働かせる工夫はもちろん、学生に語りかけるように学生を尊重しているスタンス・学生への接し方を学ばせて頂いた。
- ・ B 教員の授業を見学。学生の人数に限らず時間を感じさせない授業の進め方や話術にショックを受けた。授業展開のスピードの強弱、常に全力で進むのではなく学生がついてきているか常に確認する視点を意識しながら自分の授業に繋げていきたい。
- ・ B 教員の授業を参観した。パワーポイントがきれいに作りこまれていた。授業中の説明とパワーポイント変わり目が鮮やかでショーを見ている感じで楽しく拝見できた。

- ・ B 教員の授業を参観した。1 限なのに誰も寝ていない。ショーのようで、見せられる方の立場に立って構造が考えられている。ワークシートに複数のクイズがあり、一緒に考えて楽しめるものであった。
- ・ B 教員の授業を参観した。課題の振り返りが非常に簡潔にされていた点を取り入れたい。10 回目の授業であったが学生が集中している。
- ・ B 教員の授業は声も通っていた 学生も参加しているのが伝わりメリハリもあった。グループ活動が多く 1 人で解けなくてもみんなで話し合い解決できるので、自身の授業でも取り入れたい。
- ・ B 教員の授業を参観した。授業に引き込まれた。ビデオを視聴させ重さ長さを体感させて、単に数字として把握するより自分の体験として覚えたことを上手くつなげるような意図があった。教員は環境面でも学生に影響を与えたいと思い掲示等色々工夫がいるが、学生はあまり感じていない。

全学教育開発センター

1. 検討会を行った教授会について

対象教授会	開催日	出席者数／全教員数（任期制を含む）
第 4 回 教員会議	7 月 17 日（水）	11 名／12 名

2. 検討会で出された意見など

全学教育開発センターから提供した 2 つの講義ならびにその他の講義について、意見交換を行った。

<英語 A-C(1a)> 担当：奥村玲香、6 月 19 日 3 限、5304 教室

（担当者）・教育学部の学生対象（12 名／16 名）なので、保育英語を取り入れた。・クラスの雰囲気がよく、活気がある。・苦手意識を持っている学生が多いが、総じて仲良くまじめに取り組んでいる。・能力差があり、レベル設定が難しい。・参観者のコメント：メリハリがある、声が聞き取りやすい、対応が丁寧、学生と教員のいい関係ができている、声を出させるように仕向けたいのではないかな、等。

（参観者）・教材の選定が適切。・スマホの google 翻訳使用は要検討→（担当者）今の学生は電子辞書を含め辞書をあまり使わない。

<英語 A-S(2)> 担当：三村仁彦、6 月 26 日 3 限、1204 教室

（担当者）・食栄の学生対象（21 名／22 名）。・1 回生に関してはリスニング中心の授業なので、リスニング→穴埋めという講義形式。・授業中にスマホを出していたら欠席扱いにする。・参観者のコメント：声を通る、わかりやすい、等。・他学科の学生に対しても授業の進め方は変えないが、課題の評価は学力に応じて対応するようにしている。

（参観者）・発音の違いをきちんと説明したり等、高校の延長ではなく、大学の専門的な授業だと感じた。・学生にとって新鮮な学びのようであった。・課題をきちんと解説して、それを評価しているのがよかった。・output があればよかった。→（担当者）shy な学生が多いので、プレッシャーに感じさせないようにという配慮から、output はあまり入れない。・予習の確認等、きめの細かい指導をしている。・発音が上手だという特性をもっと前面に出して学生を刺激したらもっといい。

<その他の講義について>

（参考になった点）・探求ワークシートを使った授業運営で、採点基準を明示したり等、課題の出し方がよかった。・大教室の授業であったが、TALESや外部サイトを使ったり小テストを挟んだりして、飽きさせない授業を展開していた。・参観後のコメントシートに対してメールで丁寧に回答いただいた。

（改善したほうがいい点）・丁寧な資料の準備と授業運営がなされているのに、学生の受講態度が悪かった。・学生が寝ていても注意をせず、淡々と授業を進めている。・単方向の知識伝達型の授業ではなく、学生とのやり取りを加えたほうがいい。・文字資料だけでなく、写真や映像があれば、もっと学生の関心を引くことができるのではないかな。

<その他>

- ・本学の場合は、学生を授業に参加させるとか、途中で寝させないようにする工夫が必要。
- ・出席を取らない授業があるので、学生がきちんと授業に出なくなる。
- ・参観教員の中にマナーが悪い教員がいる。（無断欠席、途中退室、PCを持ち込んで内職をする、居眠り、等）→・FD推進委員会を通じて、参観のマナーについて注意喚起を行ったらいいのではないかな。
- ・授業参観をしたいと思っていない教員（授業改善に意欲のない教員）は参観をしなくていいように制度を変えてもいいかもしれない。

V.FD推進委員会

V. FD 推進委員会

1. F D 推進委員会

[2 0 2 4 年度]

F D 推進委員会	委員長	鈴木 卓治	(全学教育開発センター長)
	委 員	後藤 博子	(文学部)
		姜 聖淑	(経済経営学部)
		黄 ジンテイ	(法学部)
		河越 隼人	(心理学部)
		渡邊 英美	(現代生活学部)
		清水 益治	(教育学部)
		大西 智之	(全学教育開発センター)
		福田 雅実	(大学事務局長)
		中島 剛	(教学支援課長・東生駒キャンパス) (教学支援課長・学園前キャンパス)
		二階堂 純矢	(学長指名)
事務局スタッフ		柊井 謙一	(教学支援課)
		石山 直樹	(教学支援課)

2. 活動報告

4月11日	第1回FD推進委員会
5月2日	第2回FD推進委員会
6月4日～7月1日	公開授業週間
6月13日	第3回FD推進委員会
7月11日	第4回FD推進委員会
9月5日	第5回FD推進委員会
9月18日	第1回FDフォーラム 演 題：「卒業生アンケート集計結果を教育改善に活かす」 登壇者：【集計結果の分析・解説】岩井 洋（全学教育開発センター） 【コメンテーター】飛世 昭裕（副学長・法学部長、教務委員長） 【ファシリテーター】谷 美奈（全学教育開発センター）
10月10日	第6回FD推進委員会
11月14日	第7回FD推進委員会
11月25日～12月7日	授業改善アンケート実施
12月	学生ヒアリング実施（各学部・学科）
12月12日	第8回FD推進委員会
12月18日	各学部教授会及び全学教育開発センター教員会議において、 「シラバス作成のためのFD」実施
1月9日	第9回FD推進委員会
2月13日	第10回FD推進委員会
2月19日	教職員研修会及び第2回FDフォーラム 演 題：「現代の大学生の心理的特徴と発達課題」 講 師：平子 侑里絵（東生駒キャンパス学生相談室カウンセラー）
3月13日	第11回FD推進委員会

以 上

3. 帝塚山大学 F D 推進委員会規程

制定 令和3年2月26日

(趣旨)

第1条 この規程は、大学設置基準第25条の3（大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）及び大学院設置基準第14条の3（大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）に基づき設置する帝塚山大学 F D 推進委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会は、本学における教育の資質向上を図るために組織的に取り組む活動（以下「F D」という。）を推進するとともに円滑な実施を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、前条に掲げる目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

F D の調査研究に関すること

F D の企画、立案及び実施に関すること

F D に関する講演会及び研修会等の企画・立案・実施に関すること

学生による授業改善アンケートの企画・実施・分析に関すること

各学部及び大学院研究科等が行う F D の支援に関すること

その他前条の目的達成のために必要な業務

(構成)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

全学教育開発センター長（以下「センター長」という。）

帝塚山大学全学教育開発センター規程第4条第1項第2号及び第3号に定める職員のうちからセンター長が指名した者

学部教授会から選出された各学科1名の教員

事務局長（次長）

教学支援課長

その他センター長が必要と認めた教職員

(任期)

第5条 前条第1項第1号、第2号、第4号及び第5号の委員の任期は、その職にある期間とし、異動が生じた場合には、後任者が引き継ぐものとする。

2 前条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、2年とし、異動が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、センター長がその任にあたる。

(運営)

第7条 委員長は、委員会を代表するとともに、委員会を招集しその議長となる。

2 委員長は、必要に応じて、委員以外の教職員に委員会への出席を求め、その報告又は意見を聴くことができる。

3 その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会においてこれを定める。

(幹事)

第8条 委員会に幹事を置き、教学支援課長をもってこれに充てる。

(他委員会等の連絡調整)

第9条 委員長は、全学教育開発センター運営委員会等、関係の各種委員会等との連絡を密にし、委員会の任務遂行の実をあげるよう努めなければならない。(改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

VI. 全学教育開発センター FD推進検討チーム

VI. 全学教育開発センターFD 推進検討チーム

1. 全学教育開発センターFD 推進検討チーム

[2024 年度]

メンバー リーダー 谷 美奈（全学教育開発センター教授）
岩井 洋（全学教育開発センター教授）
川添 一郎（全学教育開発センター准教授）

<活動内容>

■FD フォーラムに関する検討

今年度も従来通り年2回開催の方向で検討を進めた。

第1回は、全学教育開発センターの発案により、ワークショップ形式で「卒業生アンケート集計結果を教育改善に活かす」というフォーラムを実施した。講師として、卒業生アンケートの集計結果の分析・解説に岩井洋先生（全学教育開発センター）、コメンテーターに飛世昭裕先生（副学長・法学部長、教務委員長）、ファシリテーターに谷 美奈（全学教育開発センター）といった三人の構成で実施した。

第2回は、学生生活支援担当（学生相談室長）の熊谷礼子副学長と鈴木卓治 FD 推進委員長での協議の結果、教職員研修会と共催の形で実施することとなった。平子侑里絵先生（東生駒キャンパス学生相談室カウンセラー）を講師に迎え、「現代の大学生の心理的特徴と発達課題」というテーマでご講演を行っていただいた。

各具体的な内容については、本報告集の「FD フォーラム」の項を参照のこと。

■授業改善アンケートに関する検討

◆アンケートの実施方法および項目の検討

前年度と同様、全科目を対象としたアンケートを TALES 内で実施することをFD 推進委員会に提案した。

◆アンケート結果の検証・検討

アンケート結果については当チームで検証・検討を行い、F D 報告集に掲載することとした。いずれも、詳しくは本報告集の「I. 授業改善アンケート」→「今後の課題」の項（P.7）を参照のこと。

■ F D 報告集の内容・構成に関する検討

- ・ F D 報告集については、昨年度の作成方法を踏襲する方向で検討された。

■ その他の検討

2024 年度全学教育開発センター F D 推進検討チームの活動の総括を行った。

2. 帝塚山大学全学教育開発センター規程

制定 平成24年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、帝塚山大学学則第63条第2項の規定に基づき、帝塚山大学全学教育開発センター（以下「センター」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、本学における全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な整備・改善の推進及び支援、並びにFD推進の企画及び大学教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育内容・方法の整備・改善に関わる企画、推進及び支援に関すること
- (2) 全学に共通する教育システムの企画及び開発に関すること
- (3) 全学的なFDの企画及び推進に関すること
- (4) 全学的な学習支援の企画及び推進に関すること
- (5) その他全学的な教育に関する必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センターに配属された本学の専任教員（任期制教員を含む）
- (3) その他センター長が必要と認める教職員

2 センター長の選出、任期等に関する規程は別に定める。

3 センターに必要あるときは副センター長を置くことができる。副センター長はセンター長が指名する。

(職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

(委員会・教員会議)

第6条 センターに、第3条に定める業務の円滑な実施に関する重要な事項を審議するため、全学教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）及び全学教育開発センター教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

第7条 運営委員会及び教員会議に関する事項は別に定める。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、教学支援課において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この規程の制定に伴い、「帝塚山大学全学共通教育センター規程」、
「帝塚山大学FD推進室規程」及び「帝塚山大学学習支援室規程」
(平成17年7月29日制定)は、平成24年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、平成25年6月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。